

私たちの取り組み (年次報告)



発刊にあたって

今年から特定非営利活動法人サロン 2002 は、toto の助成を受けて広報誌を作成し、わたしたちの“志”である「スポーツを通してのゆたかなくらしづくり」を、誌面を通してお届けすることとなりました。

その名称から想起されるように、わたしたちのNPOは2002FIFAワールドカップ前からあった、サッカー好きの若者の研究ネットワークがはじまりです。「サロン 2002」の名称は1997年度から用いており、2017年はちょうど20周年となります。

20年も経過すると、はじめたころの若者はみな、いい年齢になっています。そしてサロン 2002 が歩んだ20年は、日本のサッカー界・スポーツ界はもちろんのこと、日本と世界の社会環境は大きく変化し、人々の意識や日常の生活習慣も大きく変わりました。

毎年開催する公開シンポジウムでは、サロンがあゆんだ20年を「Before2002 After2020」と題して、さまざまな角度から振り返りました。単なる思い出話だけでなく、いまにどうつながり、これからどこへ向かっていくのかを考えるよい機会となりました。この広報誌にはシンポジウムの内容が網羅されるとともに、寄稿編として4名の方から貴重な証言をいただいています。

サロン 2002 の中心的な活動である月例会は、2017年6月で通算250回となりました。毎回テーマはユニークで、参加者は多種多様です。広報誌には月例会報告のダイジェスト版が掲載されていますので様子がおわかりいただけるでしょう。興味を持って下さった方は、ぜひホームページをご覧ください。ダイジェスト版でなく、読み応えのあるフルバージョンの報告が掲載されています。広報誌にはフルバージョンの月例会報告が3件掲載されています。サロン 2002 の各事業－公開シンポジウム、U-18フットサル、月例会－について取り上げたもので、わたしたちのNPOをご理解いただくうえで有益となることでしょう。

任意団体のころ、わたしたちはなかなか事業主体になりきることができませんでした。そこにもどかしさもありました。2014年度からNPO法人となり、“志”に沿ったさまざまな事業に積極的に取り組むようになりました。広報誌には、toto助成を受けて主催した「U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ」の報告もあります。また、「スキプロジェクト」や「オリンピック教育」の事業報告もあります。Sport for Tomorrow コンソシアムの一員として、これからも国内外の様々な活動に取り組んでいく所存です。

はじめての広報誌です。ぜひ手に取ってお読みください。

そして、「スポーツを通してのゆたかなくらしづくり」という“志”に賛同していただけるなら、まずは「スポーツネットサロン 2002」のメンバーになりませんか？

2018年3月1日

特定非営利活動法人サロン 2002 理事長

中塚義実



SALON2002

月例会報告 2017.1~2018.1

2017年1月

NPOサロンの事業を考える① —公開シンポジウム—

中塚義実 (NPO法人サロン2002理事長/筑波大学附属高等学校)

【日 時】 2017年1月24日(火) 19:15~21:10

【会 場】 筑波大学附属高校(東京都文京区)

【テーマ】 NPOサロンの事業を考える①-公開シンポジウム

【演 者】 中塚義実(NPO法人サロン2002理事長/筑波大学附属高校)ほか

【参加者(会員・メンバー)11名】

安藤裕一(GMSSヒューマンラボ)、春日大樹(筑波大学大学院)、岸卓巨(日本スポーツ振興センター)、小池正通((株)La Esperanza)、小山基彰(ヒーローインタビュー)、笹原勉(日揮(株))、関谷綾子(関谷法律事務所)、茅野英一(帝京大学)、中塚義実(筑波大学附属高校)、守屋俊秀(世田谷区サッカー協会)、守屋佐栄(2017はUAE、イラン、サウジに行く予定)

【報告書作成者】 中塚義実

サロン2002の主たる事業の一つである「公開シンポジウム」をテーマとして、開催してきたシンポジウムの振り返り、シンポジウムの位置づけ、2017年度のシンポジウムの予定について理事長の中塚氏が報告した。

サロン2002の最初の公開シンポジウムは、2001年度の「コンフェデレーションズカップ総括シンポジウム」。その後毎年開催地を変えて開催され続け2016年度は「日本サッカーのルーツを語ろう」がテーマであった。(各回のテーマは表参照)

サロン2002は、創生されたころより、「何らかの結論を出して行動に移したい場合は、プロジェクトチームをつくり、行動につなげる」ことにしていた。サロン2002の2つ目のプロジェクトであった「ワールドカッププロジェクト1(ワン)」は、2001年5-6月のコンフェデレーションカップ杯(ワールドカップのプレ大会として位置づけられる)を総括し発信することで、2002年のワールドカップに活かすことが目的として企画された。この内容をベースにして公開シンポジウムとして開催したのが2001年

度の「コンフェデレーションズカップ総括シンポジウム」であった。コンフェデレーションズカップに関わった演者による講演ならびに討論は、人の交流と情報の交換を生み、2002年以降につながる成果をもたらした。また後日作成されたシンポジウム報告書は600部作成され、JFAやJAWOC、47都道府県サッカー協会や開催自治体、公認キャンプ候補自治体など、関係する諸機関に配布された。(大規模なシンポジウムで報告書の作成ならびに発送にも多額の費用が発生したが、参加費並びに賛助金により黒字であった)

2002年のシンポジウムは、FIFAワールドカップ終了約1ヶ月後の8月初旬に「ワールドカップ総括シンポジウム」を東京と神戸で開催した。東京では「ささえる物語」を、神戸では「観戦と交流の物語」を取り上げ、それぞれの分野で活躍した方々が登壇した。岐阜県飛騨古川町(現飛騨市、ルーマニアのキャンプ誘致を計画した)からのシンポジウム報告書への寄稿は貴重な活動の記録となった。

2003年以降も毎年シンポジウムは開催されたが、

日本サッカーの歴史を紐解く内容、あるいは時流に即したテーマなど都度興味深いテーマが取り上げられた。

2016年の公開シンポジウムのテーマは「日本サッカーのルーツを語ろう!」。サブテーマを「東京高等師範学校の足跡を中心に」として焦点を明確化したうえで、2016年12月17日(土)に開かれた。牛木素吉郎氏が「日本へのサッカーの移入」と題して講演(①日本のサッカーの初期における中村覚之助の功績 ②その後の東京高師卒業生によるサッカー普及への影響 ③学校(体育)を通じたスポーツ普及について。)真田久氏(筑波大学体育専門学群長、スポーツ史研究者)は「嘉納治五郎校長時代の東京高師」について講演。柔道の創始者として知られる嘉納治五郎は、アジア初のIOC委員であり東京高等師範学校の校長を長く務めた教育者でもあった。①体育科の設置、②課外活動の奨励、③留学生の体育・スポーツを

奨励、という嘉納校長の功績と教えが東京高師の学生に浸透し、日本の体育・スポーツ発展の源流となったことを解説した。演者(中塚)が東京高師卒業生の全国へのサッカー普及のあゆみ、戦前の日本サッカーの大まかなあゆみを解説し、続いて賀川氏が、①神戸のサッカーと河本春男先生、②ビルマからの留学生チョウディン、③朝鮮半島へのライバル意識、④戦前の日本代表チームなどについて、自身の体験をもとに話された。懇親会も含め人のつながりを楽しむことができたシンポジウムであった一方で、参加者が70名で目標の200名に及ばなかった点は課題となった。

2017年度については「サロン2002の20年を語ろう(仮題)」と題して、日本のサッカー界、スポーツ界の劇的变化と、その中でサロン2002そのものがどう変化してきたのかについても取り上げる予定。 ㊄

2017年2月

FCバルセロナ・カンテラ出身の久保建英君をめぐるメディアの在り方と2015年2月始まったペーニャ(サポーターズ・クラブ)の正しい作り方に関して



小池正通(株式会社La Esperanza 創業者)

千葉大学法経学部卒業後、大手出版社や大手進学塾で編集や新規事業開拓に携わる。退社後、株式会社La Esperanzaを設立。進学塾の経営・コンサルティング、学習参考書の執筆・編集、大学でのキャリア教育を主な事業ドメインとする。営業権を譲渡し、現在、一般社団法人La Esperanza代表理事。ヨーロッパ・サッカーのビッグクラブや federation と直接コンタクトが取れる日本で稀有な存在。

【日 時】2017年2月17日(金)19:10~21:10

【会 場】筑波大学附属高校3F会議室(東京都文京区)

【テーマ】FCバルセロナ・カンテラ出身の久保建英君をめぐるメディアの在り方と2015年2月始まったペーニャ(サポーターズ・クラブ)の正しい作り方に関して

【演 者】小池正通(株La Esperanza 設立者)

【参加者(会員・メンバー)13名】

安藤裕一(GMSS ヒューマンラボ)、梅本嗣(博報堂)、奥崎覚(Qoly)、春日大樹(筑波大学大学院)、岸卓巨(日本スポーツ振興センター)、小池正通((株)La Esperanza)、小池靖(サッカースポーツ少年団:在さいたま市)、遠山諒(国際基督教大学)、徳田仁(株セリエ)、中塚義実(筑波大学附属高校)、守屋俊秀(世田谷区サッカー協会)、守屋佐栄(来週は八方でスキー三昧)、山内直

【参加者(未会員)5名】片上千恵(IMAGE WORKS & Co.)、張寿山(明治大学)、永井千明(日本女子大学)、森下仁道(筑波大学)、森田太郎(Sarajevo Football Project “お善だて”)

【報告書作成者】小池正通

スペインのプロサッカーは、1890年のセビージャが最初だが、その歴史ある国の中でも名門であるFCバルセロナのカンテラ(育成組織)の門を10歳でくぐった日本人が久保建英君。さてメディアには、「つ

なぎ役」、「権力監視」、「スポーツ(選手)の魅力伝える」、などの役割があるが、日本の新聞やテレビが久保建英君をどのようにとりあげていたかを、具体的な新聞社名やテレビ局名を出しながら解説。また各社

のサッカーやスポーツに対する方針が1月1日の新聞で垣間見られることも興味深い。

久保建英君は、小学校2年生のときバルサのキャンプに参加してMVPを受賞したのだが、父親の努力も素晴らしい。久保建史氏(久保君の父)の著書を引用すると「バルサに行きたいならバルサの練習をする」。つまり久保君がキャンプに参加する前年に久保建史氏はキャンプを視察し、練習内容やコーチが選手にどのようなプレーを期待するかメモをとり分析した。日本に帰国後、久保建英君には、サッカーが上手になるために練習するだけでなく、バルサキャンプでMVPを取り、現地のスクールの練習に参加権利を獲得するための練習を提供したという。「すべての練習はバルサに通じる」!

久保君が初めてメディア(テレビ)に登場するのが、「ソデヨク・ヨーロピアン・ルーサスカップ」という、ベルギーで開催された大会。バルサキャンプの責任者である、浜田満さんも同行し、彼が撮影された映像がフジテレビの朝の番組に流れた。

ところでインターネット・メディアが登場し、ネット社会では簡単に、無料で記事を読むことができるが、インターネットの記事は他の媒体をそのままの形で転載したものがほとんどです。中には個人の意見を載せた記事もありますが、署名記事はごく稀です。

(インターネットを通じた無責任ともいえる情報の発信(垂れ流し)に演者は危惧を感じることを訴えた。)

さて、ペーニャ(公式ファンクラブ)の正しい作り方。演者は2014年FCバルセロナのペーニャ部を訪ねた。当時、日本人ソシオが1500人から300人に激減したが、直接バルセロナに行かないと更新作業ができないことが主因。そこで日本にあるペーニャで更新できればよいとペーニャ部とソシオ部に提案したところ、バルセロナのスタッフから「お前(小池)がペーニャを作れ」という逆提案をされた。大変な作業であることが予想されたので最初は断ったが、結局引き受ける事になる。会員規約(日本語と英語版)、定款を作成した上で一般社団法人を設立するのだが、規約作成の為にスペインの法律の勉強をしたものの理解出来ず、ロンドンやニューヨーク、ブリュッセルといった海外にあるバルサのペーニャより規約を送ってもらい、日本の実情に合い、なおかつスペインの法律に基づいた会員規約を作成するという様々な苦勞を乗り越えて日本にペーニャを作った裏話が語られた。

バルサから消えた2人の神童(ガイ・アスリンとデウロフェウ両選手)の紹介や、スペインでは5年居住したら市民権が得られるなど、バルセロナを知りつくし愛する演者ならではの報告が行われた。 □



久保建史氏(久保君の父)の著書



FCバルセロナの哲学(フィロソフィー)

2017年3月

NPOサロンの事業を考える② —U-18フットサル—

中塚 義実 (NPO法人サロン2002 理事長/筑波大学附属高等学校)

本多 克己 (NPO法人サロン2002 理事/株式会社シックス)

【日 時】 2017年3月29日(水) 18:30

【会 場】 すみだ産業会館 会議室 5 (東京都墨田区)

【テーマ】 NPOサロンの事業を考える 2 -U-18フットサル-

【演 者】 中塚義実 (NPO法人サロン2002 理事長 / 筑波大学附属高校)、本多克己 ((株)シックス)

【参加者(会員・メンバー)7名】

奥山純一(フットリンク運営者)、賀川浩(スポーツジャーナリスト)、岸卓巨(日本スポーツ振興センター)、小池正通(La Esperanza Foundation)、小山基彰(ヒーローインタビュー)、中塚義実(筑波大学附属高校)、本多克己((株)シックス)

【参加者(未会員)4名】 大友洋介(武相高校フットサル部顧問)、橋和徳(U-18 富山県フットサル選抜監督 / 富山いづみ高校 / 筑波大32期生)、永松慎二、国島栄市(ビバ!サッカー研究会)

【2次会からの参加】 齋藤宣彰(会社役員)、今廣佳郎(会社員)、佐藤いちろう(靴郎堂本店)

【報告書作成者】 中塚義実、本多克己

サッカー研究会を前身とするNPO法人サロン2002では、1990年代半ばにFIFAのリードで「誕生」したフットサルにも、初期より多くのサロン会員が関わってきた。そのフットサルだが、U-18年代のオフィシャル大会の整備が遅れたこともあり、サロン2002会員が積極的に支援ならびに推進してきた。「ユースフットサル選抜トーナメント2017」(墨田区総合体育館、以下「ユース選抜大会」)の開催に合わせて開かれたこの月例会では、U-18フットサルの現状と課題を共有すべく、全国からのU-18フットサル関係者も参加し、意見交換が行われた。

FIFAが1994年に「フットサル」を定めたことに従い、日本では同年にJFAがミニサッカー委員会をフットサル委員会と改称したうえで、各都道府県にフットサル担当者がおかれた。中塚は初代より現在に至るまで継続している唯一の東京都委員会のメンバー(2種担当)である。フットサル委員会の仕事の一つに全国大会予選の開催であり、U-15と成人の大会が創設されたが、U-18は成人のカテゴリーに含められていた。

2000年度の東京都サッカー協会(TFA)フットサル委員会で、「民間施設で多くの高校生がフットサルをしている」状況が報告されたことをきっかけに、2001年にTFA公認のU-18フットサル大会が初めて開催された。U-18大会は年2回開催ということ

で定着し、さらに2008年度からはTFA公認「リーグ」へ発展した。これら東京都での動きは、2011年TFAフットサル委員会主催「U-18フットサル大会10周年記念シンポジウム」をはじめ全国に発信されていった。

2014年にNPO法人となったサロン2002は、フットサルをテーマとした月例会やシンポジウムも何度か開催。2013年3月の公開シンポジウム(「U-18フットサルトーナメント」期間中に開催)は、当時のJFAフットサル委員長とJFF専務理事が登壇し、JFA主催U-18大会が開催されるきっかけにもなった。(以上中塚が報告)


本日開催された「ユース選抜大会」は、2012年に創設された「U-18フットサルトーナメント」の流れを汲むもの。当時、JFAでも、JFFでもU-18世代のフットサル大会の必要性は議論されたが、「協会・連盟の外で大会をつくって、それを公式な大会に発展させる」方向性が示された。サロン2002まだ法人格を持っていなかったこともあり、民間企業であるシックスとフロムワンが前述の「U-18フットサルトーナメント」を主催、2014年から開始されたJFA主催の全日本ユース(U-18)フットサル大会に発展した。

一方、「ユース選抜大会」は、地域ごとに選抜されたチームが参加するという形式で実施しているが、今

後の方式は流動的。また現状はサロン2002が共催となっているが、今後は「後援」という形になる可能性もある。

「U-18 フットサルトーナメント」「ユース選抜大


会」へは、高校サッカー部勢の出場が増加、一方「日常的にフットサルをプレーするチーム、選手による大会」を望む声に対応する形で2017年1月に「U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ」としてサロン2002主催の大会を新設するに至った。サロン2002の役割は、開催されるべき大会、あるいは開催が望まれる大会があれば、主催や共催などのかたちで推進、つまり地域にリーグや公式大会が整うまでの橋渡しの役割を担うこと。言い換えれば「この大会を機に各地にU-18リーグが整備され、日常的にフットサルを楽しめる環境が整備されることを願う」とのこと。第2回大会は2018年1月に開催を準備中(以上本多が報告)

このあと富山県U-18選抜の監督の橘氏、武相高校フットサル部顧問の大友氏、大阪選抜の監督の永松氏らが積極的に質疑討論に加わった。 

東京都U-18フットサルリーグ

- ◆2007年度にプレリーグ
 - ◆2008年度から、TFA主催の公認リーグ
 - ◆2012年度の様子
 - ・1部・2部各6チーム、計12チーム(11クラブ)
 - ・10~12月に1回戦制、4~6月に交流戦・審判講習会(高校生審判)
 - ・主会場はフットサルアケとしまえん、筑波大附属高校体育館等
 - ・1部結果 優勝:フットボウズフットサル
準優勝:府中アスレティックFCユース
第3位:東京成徳大学高校フットサル同好会
 - ・リーグ選抜...12月に韓国遠征(大会に参加)
3月に神奈川県選抜と交流戦
- 「もっとやりたいから自主運営! =リーグの原則」

「はじまりの10年間(2001~2010)」と、「次の10年間(2011~2020)」の位置づけ

- ◆「はじまりの10年(創設期)」は、「都内」で立ち上げ、育てた期間
立ち上げ、育てたのは、
①普及目的の夏の大会
②競技志向の冬の大会
③フットサルリーグ
- 
- ◆「次の10年」は「横と縦への広がり」を志向する
①横への広がり...「関東」そして「全国」への拡大
・隣県との交流から全国大会の開催へ
 - ②縦への広がり...「底辺」から「頂点」までの拡大
・多様なレベル・ニーズに応じた事業

「U-18フットサル」のこれから

- いつ?
シーズン? → サッカー(既存の競技会)とどうすり合わせるか
曜日? 時間帯? → リーグ戦を行う際に調整が必要
- どこで?
体育館? 人工芝? → 学校体育館をどうやって開拓するか
- 誰が?
サッカー部員? フットサルに特化?
「U-18」とは誰のこと?(高校生? 第2種? 18歳未満? 以下?)
- 何を? =「フットサル」にはどのような条件が必要?
ボール? ルール?
- どのように?
公と私の違いは? 担い手(組織)は? 高体連との関係は? *

2017年4月

マーケティングの観点から見た2019年 ラグビーワールドカップ組み合わせ試案



井上 俊也 (大妻女子大学教授・早稲田大学スポーツナレッジ研究所招聘研究員)

1961年愛媛県出身。1984年慶應義塾大学経済学部を卒業、日本電信電話公社(現・日本電信電話株式会社)入社、仏国HEC卒業。日本電信電話株式会社、NTTフランス、東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社、NTTコムウェア株式会社などNTTグループで26年間、主に営業、企画、国際業務に従事。2010年大妻女子大学に入職。現在、キャリア教育センター教授として正課外講座の「大妻マネジメントアカデミー」の企画・運営を担当。なおサロン2002で過去4回以下の報告をしている:「持ち株会社解禁とプロサッカークラブの経営」(第5回1997年8月)、「フランスサッカーの現状と課題」(第18回、1998年9月)、「ラグビーワールドカップとサッカーワールドカップ」(第182回、2011年11月)、「強いフランスを目指したサルコジ時代のフランスサッカー」(第193回、2012年10月)

【日 時】2017年4月18日(火) 19:00-21:00

【会 場】筑波大学附属高校(東京都文京区)

【テーマ】マーケティングの観点から見た2019年ラグビーワールドカップ組み合わせ試案

【演 者】井上俊也(大妻女子大学教授)

【参加者(会員・メンバー)10名】

安藤裕一(株GMSSヒューマンラボ)、井上俊也(大妻女子大学)、浦和俊介(立川市富士見町7-1-205)、奥崎覚(Qoly)、嶋崎雅規(国際武道大学)、徳田仁(株セリエ)、名方幸彦(文京教育トラスト)、中塚義実(筑波大学附属高校)、守屋俊英(世田谷区サッカー協会)、守屋佐栄(世田谷区生涯大学事務局)、

【参加者(未会員)11名】

長谷川仁(ヤマハ発動機株)、伊藤秀志・小柳津和彦(袋井市企画政策課)、長岡茂(Espoir Sport株)、保科たまき(徳田氏友人)、大谷隆之(徳田氏友人/古河インフォメーションテクノロジー株)、片上千恵(帝京大学/メディアトレーナー)、香西武彦(Honda)、北島温子(中央大学高等学校)、玉澤正徳(笹川スポーツ財団)、川名紀義(株ピージー)

【報告書作成者】浦和俊介

サロン2002発足以前の「社・心グループ」時代から関わりのある井上氏が、今回通算で5回目の報告をした。

2019年に日本で行われるラグビーワールドカップの組み合わせ、ならびに日程についてマーケティングの観点から試案を提言(表)し、この背景を解説。ラグビーワールドカップは試合日程や試合会場など、実力と人気を併せ持つ有力国8か国(ニュージーランド、豪州、南アフリカ、イングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランド、フランス)中心に運営、これら8か国のファンを重視した大会運営であった。初めて有力国以外で開催される2019年日本大会においても、「有力国を優先しつつ、以下に示すように、より広いマーケティング的な観点から開催国として入場料収入だけではなく交通・観光・宿泊の便も考慮し、国内外のファンにとって利便性のある組み合わせを考える必要があるであろう。」と提言がなされた。

1) より多くのファンが現地並びにテレビで観戦できるようにする。

- 2) 宿泊施設の整備や交通アクセスに応じた日程を設定する。
- 3) 観戦のために訪日するファンが試合の間に観光できるようにする。
- 4) 6週間という長期間にわたるイベントであるが、開催国として継続的に関心を持ち続けられるようにする。質疑としては、

サロン2002月例会(通算第248回) 平成29年4月18日

マーケティングの観点から見た 2019年ラグビーワールドカップ組み合わせ試案

大妻女子大学 井上 俊也
 toshiya.inoue@otsuma.ac.jp

全体の流れ

1. はじめに
2. ラグビーワールドカップとは
3. 2015年イングランド大会の開催日程の検証
4. 2019年日本大会の開催日程試案
5. 国別の過去2大会との比較
6. おわりに

- ・参加国の決め方は？(予選免除の国の決め方)
- ・国際試合(テストマッチ)との関係
- ・キャンプ地はどこになる
- ・マイナーな試合でも観客動員できるか
- ・入場料はいくら位に設定したらよいか(人気のない組み合わせにいかに関客を動員するか)

- ・ラグビーファンを増やすためにどのように努力したら良い
といったことが議論された。
開催予定地から参加した方からは、「開催地として準備に必要なヒント」が得られたとの感想をいただいた。

5

報告の概要

2019年に日本で行われるラグビーワールドカップの組み合わせ並びに日程についてマーケティングの観点から試案を提言する。ラグビーワールドカップは試合日程や試合会場など、実力と人気を併せ持つ有力国8か国(ニュージーランド、豪州、南アフリカ、イングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランド、フランス)を中心に運営、これら8か国のファンを重視した大会運営であった。初めて有力国以外で開催される2019年日本大会においても、有力国を優先しつつ、以下のより広いマーケティング的な観点から開催国として入場料収入だけではなく交通・観光・宿泊の便も考慮し、国内外のファンにとって利便性のある組み合わせを提案する。

- ・より多くのファンが現地並びにテレビで観戦できるようにする。
- ・宿泊施設の整備や交通アクセスに応じた日程を設定する。
- ・観戦のために訪日するファンが試合の間に観光できるようにする。
- ・6週間という長期間にわたるイベントであるが、開催国として継続的に関心を持ち続けられるようにする。



2

2019年大会日程の試案

予選プール												
Date	Pool A			Pool B			Pool C			Pool D		
	対戦カード	会場	時刻	対戦カード	会場	時刻	対戦カード	会場	時刻	対戦カード	会場	時刻
20-Sep/Fri	JPN SAM	東京	19									
21-Sep/Sat				WAL IROU	豊谷	17	FRA GEO	豊田	14	SCO ITA	大分	20
22-Sep/Sun	ENG RSA	横浜	20	NZL ARG	大分	14				IRE FIJ	札幌	17
23-Sep/Mon							AUS TON	静岡	19			
24-Sep/Tue	SAM ESP	釜石	19									
25-Sep/Wed							GEO NAM	神戸	19			
26-Sep/Thu												
27-Sep/Fri				ROU USA	福岡	19						
28-Sep/Sat	RSA JPN	豊田	14	NZL WAL	東京	20				SCO FIJ	豊谷	17
29-Sep/Sun	ENG SAM	大分	20				FRA TON	熊本	14	IRE URU	静岡	17
30-Sep/Mon							AUS NAM	札幌	19			
1-Oct/Tue				ARG IROU	神戸	19						
2-Oct/Wed	JPN ESP	札幌	20							ITA FIJ	東大阪	17
3-Oct/Thu												
4-Oct/Fri							GEO TON	東大阪	19			
5-Oct/Sat	RSA SAM	東大阪	14	WAL USA	熊本	17				SCO URU	神戸	20
6-Oct/Sun	ENG ESP	静岡	17				AUS FRA	横浜	14	IRE ITA	豊田	20
7-Oct/Mon				NZL ROU	札幌	19						
8-Oct/Tue							TON NAM	釜石	19			
9-Oct/Wed				ARG USA	東大阪	19						
10-Oct/Thu										FIJ URU	福岡	19
11-Oct/Fri												
12-Oct/Sat	RSA ESP	熊本	17				FRA NAM	豊谷	14	IRE SCO	東京	20
13-Oct/Sun	ENG JPN	横浜	20	WAL ARG	静岡	17	AUS GEO	大分	14			
14-Oct/Mon				NZL USA	豊田	17				ITA URU	熊本	14

準々決勝												
19-Oct/Sat	C1	B2	東京	17	D1	A2	横浜	20				
20-Oct/Sun	B1	C2	横浜	17	A1	D2	東京	20				

準決勝												
26-Oct/Sat	東京19時	横浜20時	東京	20								
27-Oct/Sun	東京20時	横浜19時	横浜	20								

3位決定戦・決勝												
1-Nov/Fri	東京26時	横浜27時	東京	20								
2-Nov/Sat	東京26時	横浜27時	横浜	20								

2017年5月

NPOサロンの事業を考える③

一月例会

中塚 義実 (NPO法人サロン2002 理事長/筑波大学附属高等学校)

【日 時】 2017年5月25日(木) 19:00~20:30

【会 場】 筑波大学附属高校 3F 会議室

【テーマ】 NPO サロンの事業を考える③ - 月例会

【演 者】 中塚義実 (NPO 法人サロン 2002 理事長 / 筑波大学附属高校)

【参加者(会員・メンバー) 5名】

川名紀義 ((株) ピージー)、岸卓巨 (日本スポーツ振興センター)、笹原勉 (日揮 (株))、嶋崎雅規 (国際武道大学)、中塚義実 (筑波大学附属高校)

【2次会からの参加者】

安藤裕一、小池靖、竹中茂雄

【報告書作成者】 中塚義実

1997年に「サロン2002」を名乗って以降、ほぼ毎月開かれてきた月例会はサロン2002の中核事業である。20年の年月を刻む月例会テーマを経時的に追うことより、日本のサッカーならびにスポーツ界の近代史を知ることができる。またサロン2002が任意のネットワークからNPO法人に至るまでのプロセスは、社会の変化と人々の意識の変化を考える手がかかりとなり得る。

I. サロン2002 発足以前

演者は大学院生だった1984年に、日本サッカー協会(JFA)科学研究委員会の開催する「サッカー研究会」に参加し始めた。この参加者の中で社会学や心理学に関心をもつ同志が研究班「社・心グループ」を発足させ、不定期に勉強会を開催するようになった。1991年は、サッカーのプロ化ならびに2002年FIFAワールドカップの招致活動が本格化した時期であるが、同年に開催された第11回サッカー医科学研究会(JFA科学研究委員会とスポーツ医学委員会が共同で年一回開催)は、「2002年FIFAワールドカップ」をテーマ(演者が提案)とするシンポジウムが開かれた。戸蒔晴彦JFA科研委員長が進行役となり、代表監督の横山謙三氏、川淵三郎氏(Jリーグ初代チェアマン)、上田亮三郎氏(大阪商業大学)が登場し、討論が繰り広げられた。

1992年から、三菱養和会(巣鴨)で「スポーツいんろう」という名の勉強会がはじまった。三菱養和会巣鴨スポーツセンター長となった横山氏(当事、元代表監督)が、「文化としてのスポーツ」の重要性を意識し、サッカー研究会のメンバーに声をかけ「スポーツとは何か」などをテーマとして毎月勉強会が開催された。「スポーツいんろう」は6年間、計71回開催された後閉会となった)Jリーグが発足した1993年前後には、「スポーツいんろう」と「社心グループ」には、研究者以外のサッカーに関わる人の参加が増加した。


同じ時期に、東京都高体連サッカー専門部の喜熨斗勝史氏の音頭で任意の研究会が始まった。この研究会は1995年度になると、喜熨斗氏に、小澤治夫氏(当時筑波大附属駒場中高)、演者を加えた3名が発起人となり「東京都高体連サッカー科学研究会」に発展した。同研究会はユースリーグが全国へ展開する上で欠かせない意見交換の場となった。(2005年度末の第99回月例会をもって閉会)

II. サロン2002の誕生と月例会

「社・心グループ」のテーマは回を重ねるごとに多彩となり、多様な職種の人が参加するという変化がみられた。このため「社・心グループ」という勉強会組織から次への展開が必然的に求められた。1997年

4月に「サロン2002」第1回月例会が開催された（「日本サッカーにおけるナショナル・アイデンティティの確立に関する研究」（高橋義雄氏）、「韓国社会と2002年ワールドカップ」（中塚氏）、「スポンサーの立場からみた巨大スポーツイベント」（榎竜一氏）の3テーマが発表された）。演者は、サロン2002の第8回月例会以来、「ユース（以下の）年代のサッカー」をテーマに複数回報告している。1998年にはサロン2002の法人化の検討が活発になり、1999年1月の月例会では、松下徹氏（「NPO法について」）、中塚氏（「サロン2002のこれまでとこれから」）が報告し、「法人化」「会員制」「月例会」について討論がなされたことを皮切りに意見交換会などで議論が重ねられた。2000年3月の月例会では、演者が「サ

ロン2002Ver2000~2001」と題して報告、設立宣言と規約案が発表され、2000年4月に「サロン2002」の規約が確定した。

2013年度には法人化プロジェクトが設置され、月例会で取り上げられたこともあり、理事会が原案を作成した上で議論が重ねられ、2014年5月31日の総会でNPO法人としてサロン2002が設立された。日本サッカー界の父とも言えるクラマーさんを招待してのシンポジウム（2005年）のような公開シンポジウムを年1回開催してきた一方で、月例会で扱われているテーマにはサッカー/スポーツに限らず、幅広い内容が取り上げられてきている。討論では歴史的背景に関する質問のほか、サロン2002の月例会/プロジェクトの方針などが取り上げられた。 

2017年6月

総会及び月例会

【日 時】2017年6月10日(土)

16:30~17:40 総会

17:40~18:30 月例会(その後祝賀会)

【会 場】筑波大学附属高校(東京都文京区)、(祝賀会は「景宜軒」(東京都文京区))

【参加者(敬称略)】

1. 総会(委任状含め21名/会員総数31名中)

1) 会員(9名): 安藤裕一、梅本嗣、川名紀義、笹原勉、関谷綾子、竹中茂雄、茅野英一、中塚義実、松下徹

2) 委任状(12名): 賀川浩、金子正彦、岸卓巨、小林俊文、白井久明、嶋崎雅規、関秀忠、高藤順、田中俊也、仲澤眞、野口垂弥、本多克己

3) オブザーバー(1名): 香西武彦

2. 月例会

関谷氏が出張により退席。上記1)3)から関谷氏を除く9名で実施

3. 祝賀会

上記1)3)および国島栄市氏の計10名

I. 2017年度総会

NPOサロンに「求められること」「できること」が年々増えている。だからこそ、互いの情報交換をより密にしていくことが大切である。このことが再認識された総会であった。

以下の各議題について、それぞれ質疑がかわされた上承認された。

1) 2016年度事業報告

2) 2016年度決算および会計監査報告、

3) 2017年度事業計画

4) 2017年度予算

II. 第250回 月例会~祝賀会

総会に引き続き、同会場で「意見交換会」を行った。NPOサロンの紹介チラシと20周年記念シンポジウムを中心に意見交換した。

1. NPOサロン2002の紹介チラシ

今年度よりNPO会員となった川名氏のデザイン2案について検討した。どちらもそれぞれ魅力あるものであったため「両案とも作る」方針となった。まずは7月5日のSFT(スポーツ・フォー・トゥモロー)全体会議で配布する予定。

2. 20周年記念シンポジウム

今回のシンポジウムの方向性として、サロン2002があゆんできた20年を振り返り、今後につながる議論をする場としたい。初期のサロン2002を担ってきた「レジェンド」たち、近年の会員・メンバー、そして広く一般の方々が集い、興味を持って参加できるような内容にしたい。

全体を2部構成とし、第1部と第2部で演者を入れ替える方法が理事会で提起されていたので、そこを出発点として意見交換。議論の続きは祝賀会会場へ持ち越された。

III. 第250回記念「祝賀会」

「祝賀会」と言ってもやることは同じ。いつもの飲み会である。男ばかり10人となり、「女性参加者の増加」が依然として課題であることを改めて感じたものの、人数的に手頃なサイズで、全員が一つのネタで話ができて、集中度は高まった。この今回の「祝賀会」には、今年度から入会された方もいれば20年前の創設時からのメンバーも参加しており、「この20年」を語るよい機会でもあった。

20年もいれば、それぞれいろんなことを体験する。懐かしい話や「へー」という話の連続でももしろかった。(以上中塚理事長の報告書(メール)を安藤理事が改編)



NPO サロン 2002 の紹介チラシ

2017年7月

お宝映像上映会

—いわゆる「ドーハの悲劇」と「ジョホールバルの歓喜」—

【日時】2017年7月24日(月)18:30開始

【会場】フットボールサロン4-4-2(東京都墨田区)

【テーマ】お宝映像上映会-いわゆる「ドーハの悲劇」と「ジョホールバルの歓喜」

【お宝映像】

1)1994FIFAワールドカップ・アメリカ アジア最終予選

1993年10月28日於アル・アリスタジアム(ドーハ=カタール)

日本vsイラク(いわゆる「ドーハの悲劇」)

2)1998FIFAワールドカップ・フランス アジア第3代表決定戦

1997年11月16日於ラーキン・スタジアム(ジョホールバル=マレーシア)

日本vsイラン(いわゆる「ジョホールバルの歓喜」)(時間の都合上延長戦のみ)

【参加者(会員・メンバー)9名】

川名紀義(株式会社ピージー)、岸卓巨(日本スポーツ振興センター)、北原由(都立武蔵高校)、小池靖(在さいたま市/サッカースポーツ少年団指導者)、齋藤宣彰、徳田仁((株)セリエ)、中塚義実(筑波大学附属高校)、守屋俊秀(世田谷サッカー協会)、吉原尊男

【参加者(未会員)6名】岸清馨、守屋佐栄、岡怜美(早稲田大学)、佐々木瞭(慶応大学)、丸山幸子(ジョホールバルの歓喜20周年記念事業委員会)、国島栄市(ビバ!サッカー研究会)

【2次会からの参加】今廣佳郎

【報告書作成者】参加者らによるコメント

2018FIFAワールドカップ・ロシアの予選が世界各地で繰り広げられる中、日本は6/13にイラクと引き分け、8/31のホームでのオーストラリア戦で決めておかないと、9/5はアウェーでのサウジアラビア戦にもつれ込むという状況。


日本サッカーの歴史を振り返ると、ちょっと前まではワールドカップは夢のまた夢の世界であった。リーグというプロサッカーが出来て迎えた1994年アメリカ大会の予選では、日本中が盛り上がる中、アジア最終予選がカタールで開かれた。(日本、韓国、北朝鮮、イラン、イラク、サウジアラビアによる総当たり戦) 1本目の映像は日本の最終戦であったvsイラクの試合を開始から終了まで上映。各自で調達したドリンクとおつまみを囲み、思い出話を花を咲かせながらもみな試合に集中。日本の選手はよく動くし、一人ひとりが際立った個性を持っているがイラクの選手もうまい。そして最後はいわゆる「ドーハの悲劇」のシーンで改めて感激!

ここで参加者ひとりずつ自己紹介が行われ、それぞれの「ドーハの悲劇」と「ジョホールバルの歓喜」について語られた。

続いて2本目となる日本vsイラン(いわゆる「ジョ

ホールバルの歓喜」)延長戦上映開始。岡野選手が何度か外し、そして最後にその岡野が決めた…。日本のサッカーファンが歓喜した瞬間を皆で思い出した。

2本の映像終了後は歓談、夏の夜を楽しく過ごした。

*参加者からのコメントあり(川名紀義、中塚義実、吉原尊男(投稿順) 



2017年9月

エストニアへ行ってきました

— 第11回 国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム報告 —



藤原 亮治 (筑波大学附属坂戸高校 教諭)

筑波大学附属坂戸高等学校 主幹教諭

山口県立高校で8年。短期大学で幼児教育に3年携わり

現職。学校外の様々な機関との協働学習の開発、これからの保健体育教師の在り方に関する再考を様々な教育プログラムを学習する中で模索中。現在は国際バカロレア「知の理論」を必死に習得中。趣味は「釣り」「子育て」「人めぐり」。

【日 時】 2017年9月15日(水) 19:00～21:10

【会 場】 筑波大学附属高等学校 3F 会議室

【テーマ】 エストニアへ行ってきました！ — 第11回国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム報告

【演 者】 藤原 亮治 (筑波大学附属坂戸高校 教諭)

【コーディネーター】 中塚義美 (筑波大学附属高校 / NPO 法人サロン 2002 理事長)

【参加者(会員・メンバー)9名】

安藤裕一 (株 GMSS ヒューマンラボ)、川名紀義 (株 ピージー)、岸卓巨 (日本スポーツ振興センター)、嶋崎雅規 (国際武道大学)、竹中茂雄 (東海道品川宿 FC)、茅野英一 (帝京大学)、中塚義美 (筑波大学附属高校)、守屋俊英 (世田谷区サッカー協会)、吉原尊男

【参加者(未会員)9名】

内田奈津子 (筑波大附属高・保護者)、大林太郎 (筑波大学)、斎藤芳 (桜丘高校)、塩田伸隆 (都立松原高校)、田原淳子 (国士舘大学)、登坂大樹 (筑波大学附属駒場高校)、藤原亮治 (筑波大学附属坂戸高校)、宮崎明世 (筑波大学)、守屋佐栄 (無職)

【報告書作成者】 藤原亮治

エストニアで開催された第11回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムに生徒引率者として参加した藤原氏が演者となり報告した。オリンピック・ムーブメントやオリンピズムの理解を若者にひろげることを目的として開催されているこのフォーラムに、日本は第10回大会(2015年)から、国内で選考された高校生(7名)を派遣している(それまでは選考なしで2名を派遣)。

まず国内の選考対象会が、関東地区(参加校5, 参加生徒31名)、中京地区(参加校4, 参加生徒23名)、いずれも2泊3日をかけて実施された。講義、ディスカッション、実技試験などを実施され、7名が選考された。(CORE(筑波大学オリンピック教育プラットフォーム)が、JOAの協力を得て選考)

選考された7名は、4月9日に初回顔合わせを行った後、7月15日(土)～17日(月)に筑波大学附属坂戸高等学校で事前研修を実施した。この研修の目的は、1) オリンピック教育:「クーベルタン賞」をめぐる諸活動を中心にオリンピズムの更なる理解に努める、2) 国際交流の準備: 日本文化の紹介や、海外の



高校生との交流に備える、3) チームビルディング：派遣生徒が互いを理解し合い、一つのチームとして機能できるようになる。大学並びに高等学校からの指導者(5名)の元で、チームビルディングも含め、講義、ワークショップ、陸上水泳、チームパフォーマンス練習などを実施した。研修が終了し解散した後は、参加者は必修となっているボランティア活動への参加、そして筆記試験やスポーツテストへ向けての事前学習、トレーニングを各自で取り組んだ。そして一行は7月17日に日本を出発、調整地であるヘルシンキで一泊したのち、7月19日にエストニアに到着した。国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラムには23か国24校が参加(初参加はブラジル、アルゼンチン、南アフリカ、ジンバブエ)、生徒が学校を抜け出して勝手に街に遊びに行くという自体も起こるが、それも国際色豊かな証拠でもある) 初日はイネス会長の「オリンピック史・オリンピズム」に関する講義があり、その後市内のスポーツ博物館とタルトゥ市内散策。午後はオープニングセレモニーがあり、国ごとに民族的な衣装と国旗をもって学校に集合した。日本は「浴衣」で登場、植樹イベントに日本人生徒が生徒代表として植樹を行った。地域の芸術学校の小～高校生たちが伝統音楽・舞踊を披露し、アットホームな雰囲気で行進、日本は全員で「礼」をして自国の文化をアピールした。パラリンピックスポーツの体験ではエストニアのオリンピック・パラリンピアンが招かれ、講師として生徒と共に体を動かした。ミニエキスポは各国文化を味わえるブースを設置するもので、多くの国が食文化を紹介する中で、「独楽」「けん玉」「折り紙」「達磨落とし」といった「遊び」を紹介した日本のブースは人気であった。スポーツテスト(水泳、100m走・走り幅跳び・ボール投げ)、エストニア農業文化博物館を見学、キャンプファイア、ディスカッション、クロスカントリー、そして

スポーツ交流(サッカー・バスケットボール・卓球・エアロビクス・サーキット・ウェイトトレーニングなど)と内容は盛りだくさんである。また3日間かけて行ったワークショップでは各国生徒が9つのワークショップに分かれ、作品作り(協働製作)を行った。英語でのディスカッションや、筆記テストが実施されたが、日本の生徒は全員が平均点を獲得し、追試を受けることなく通過した。

各国生徒の成長を間近に観察していた演者は、このフォーラムは非常に豊かな交流の場であり、生徒の成長とかけがえのない仲間を獲得ができる貴重な経験である。今後参加校教員・組織間でこのフォーラムの価値の再確認と共有をすることでさらに大きな価値を生み出すフォーラムになると言う感想を残している。📷



2017年10月

サロン in 東海道品川宿

竹中茂雄(東海道品川宿FC クラブマネージャー/旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会事務局)

【日 時】2017年10月20日(金)19:15~20:45(受付19:00)注「お散歩ツアー」は18:30馬場駅集合

【会 場】品川宿交流館 本宿お休み処(品川区北品川2-28-19)

【テーマ】東海道品川宿FCのスポーツを通じたゆたかなくらしづくり、まちづくり
～フットサルのチカラで、部活動の課題解決に取り組む～【演 者】竹中茂雄(東海道品川宿FC クラブマネージャー/旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会事務局)
松村圭佑(東海道品川宿FC 監督)

【参加者(会員・メンバー)7名】

安藤裕一((株)GMSSヒューマンラボ)、大河原誠二(桐窓サッカー倶楽部)、岸卓巨(日本スポーツ振興センター)、熊谷建志(FC城東)、中塚義実(筑波大学附属高校)、松下徹(公認会計士・税理士)、守屋俊英(世田谷区サッカー協会)

【参加者(未会員・一般)17名】

大澤淳(なぎさの会)、萱原雅史(税理士)、河原典仁(中央電力)、岸弘之(FC西巣鴨03)、国島栄市(ビバ!サッカー研究会)、霜島剛(野毛印刷社)、田中姿子(品川区スポーツ協会)、田中義巳(街道文庫)、玉井(まちづくり協議会)、辻和之(東海道品川宿FC)、初野翼(東海道品川宿FC)、堀江新三(まちづくり協議会)、松村竜祐(東海道品川宿FC)、皆川宥子(日本女子大学)、守屋佐栄(無職)、和田フジコ(まちづくり協議会)、渡口(まちづくり協議会)、

【参加者(未会員・中学生)3名】

泉田陶汰(東海道品川宿FC)、辻大飛(東海道品川宿FC)、平井柊(東海道品川宿FC)、

【報告書作成者】竹中茂雄

今回はいわゆる「おでかけサロン」、いつもの会場である筑波大学附属高校ではなく、東海道の最初の宿場町「品川宿」にて、とてもゆたかなひとときを過ごすことになった。江戸時代から続く400年の歴史と躍動する竹中氏の15年のあゆみ、新たな視点満載の町おこし、フットボールの可能性、つながっていく人と人…。

まず新馬場駅に集合して「お散歩=品川宿のまちご案内ツアー」が開始。竹中氏が案内役となり新馬場駅から品川宿交流館まで、途中のお店にも数軒寄らせて頂きながら30分弱かけて散歩。

到着した品川宿交流館には、地元町内会の方がすでに集まっている。そこでスライドを用いながら、竹コーチ松コーチ(それぞれ竹中氏、松村氏)によるトークが始まった。

先ず竹中氏の物語、「サッカーは好きだけど、部活が合わない、部活を辞めた。サッカーを辞めた。」学生時代の仲間の多くが、上下関係や厳しい練習を理由に「好きなサッカーを辞めている」という事実を知り、なぜなんだ!?という疑問を持った大学生当時(まだインターネット黎明期でなかなか開かないホーム



ページで調べた)、自らを「チェアマン」と名乗り、「DUO リーグ」なる取り組みをしている高校の先生(编者注、中塚理事長のこと)を発見。さっそく会いに行き(アポなし突撃)、自らの問題意識や、地域活動(自主運営のフットサル大会)について語ったところ以下のようなアドバイスをもらう。

「ええやないか、君らの取り組み。アマチュアに引退はない！」

「小さく立ち上げ、大きく育てるんや！」


「ユベントスも100年前は、学生のサッカーサークルやったんやぞ！」

(中塚氏のアドバイスは、今も竹中氏の行動指針として生き続ける。)

こうしてサロン2002との交流がはじまり、また多くの学びと経験、紆余曲折を経て、2016年4月、「東海道品川宿FC(一般社団法人 東海道品川宿スポーツクラブ)」を設立し、品川区において本格的なクラブがはじまった。

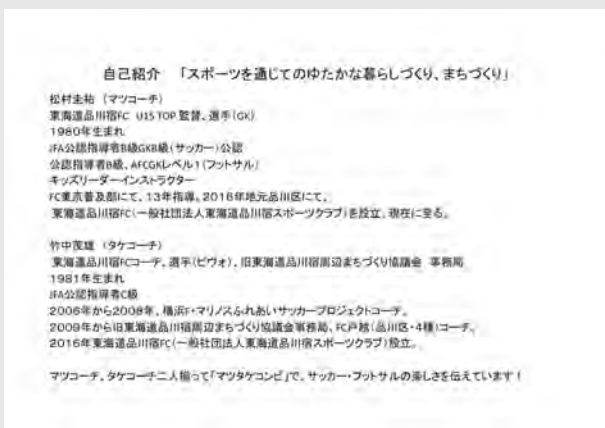
ホームタウン東海道品川宿には、江戸時代、東海道第一の宿場町として栄えた宿場町としての気質や文化が受け継がれている。情緒あふれる住民がいる一方で、埋め立てた土地には高層マンションが立ち並び子どもたちの人口も増加している。この東京都の中でも

ユニークな地域で、地元の子どもたち「しながわっこ」(江戸っ子ではない)のために、スポーツを通じてどんなことができるか常に考えてきた竹コーチ、松コーチ二人の熱い思いが、徐々に地元の人達にも受け入れられ、クラブがまちに根付いていく過程を語ってもらった。

東海道品川宿FCに所属する中学生3名も飛び入りで参加、それぞれが素敵な発言を残し、クラブと地域のゆたかな未来を占うものとなった。 



マツコーチ、タケコーチ二人揃って「マツタケコンビ」で、サッカー・フットサルの楽しさを伝えています!





フットサル × サッカー部



フットサル × 陸上



フットサル × 吹奏楽



フットサル × 受験勉強



2017年11月

TOKYO2020オリンピック・パラリンピック と漫画の世界

小林勝海（株式会社漫画家学会）

【日 時】2017年11月24日(金)19:00

【会 場】筑波大学附属高校(東京都文京区)

【参加者(会員・メンバー)9名】

安藤裕一((株)GMSSヒューマンラボ)、川名紀義((株)ピージー)、岸卓巨(日本スポーツ振興センター)、小山基彰(ヒーローインタビュー)、笹原勉(日揮(株))鈴木稔(オーシャンズジャパン株式会社)、中塚義実(筑波大学附属高校)、守屋俊秀(世田谷サッカー協会)、吉原尊男

【参加者(未会員)10名】

長伊藤政則(太陽インダストリーアフリカ)、今西智津子(筑波大学附属高校)、江尻章(株式会社漫画家学会)、木所聡(文京区立柳町小学校)、国島栄市(ピバ!サッカー研究会)、小林勝海(株式会社漫画家学会)、中西正紀((株)古今東西社)、道端寿奈(足立区立舎人小学校)、守屋佐栄(無職)、Alejandro Parra Gaete(Universidad San Sebastian(チリ))

【報告書作成者】守屋俊秀



東京都墨田区で職人に囲まれて育った演者小林氏は、会社勤務を経て家業を継ぐも3年後に独立、さらに現在の漫画家学会の前身であるアイ・エフ・ビーという繊維製造卸の会社に就

職。同社が、京都精華大学(マンガ学部がある)からの依頼で、漫画家に仕事を創出するための会社(株式会社漫画家学会)を立ち上げたころより漫画業界に関わるようになった。

2009年、同社が「紙芝居師」という職種の正社員を公募したところ、大阪で150人、東京で300人の応募(声優、俳優など表現を職業とする人の応募が多かった。)という反響、さらにマスコミに取り上げられたこともある。依頼は増加し、手狭であった渋谷の事務所から荒川区の熊野前商店街に移転した。荒川区が当事業を観光資源と認めたこと、また当時オリンピック・パラリンピック招致をしていた東京商工会議所荒川支部と知り合い、紙芝居作成の打診・依頼を受けた。作成された紙芝居は、荒川区で高評価を受け、ついで都庁の招致委委員会でも評価を受け、同組織はオフィシャル団体となった。招致委員の依頼などで学校を中心に事業を展開した。上演総数は数百回になるが、半分以上は東北。石巻市の学校や仙台市七夕祭りでも実施した。東松島市訪問時にパラリンピック

の伝道師のような人と出会う機会があり、小林氏はこの方の影響を強く受けてパラリンピックの招致に傾注しているとのこと。

なお渋谷区では4競技についてオリジナルで紙芝居を作っている。東京パラリンピックの千日前に実施された機運醸成の事業の一つとして、渋谷駅前の憲章



渋谷区内での実績



オフィシャルスポンサー総代理の商社でも提供(2013年1月)

ボードで今これが掲載されている。区立の小中、公立の幼稚園、保育園、大体年60回くらい、プラス渋谷区民祭りや区主催事業で紙芝居を上演している。またオリパラとは別の事業だが海外での紙芝居上演も展開している。

2010年の開催国が東京に決定した日の夜、魅力的な基調講演をした大学の先生より、「マンガでオリンピック歓迎事業」を提案いただいた。NPO法人日本マンガ・アニメトキワ荘フォーラム（注、同法人は株式会社漫画家学会の支援でできた）があり、トキワ荘フォーラムの活動もある、京都精華大学ともつながりもあることなどから、実際に計画を開始した。その柱の一つはマンガコンテストで、予算規模3～5千万、当初の計画通りであれば、現在公募をしている予定であった。しかし資金集めにオフィシャルスポンサーや自治体などいろいろと回ってみたものの良い返事はもらえておらず、現時点では資金の目処が立っていない。また自分たちで作ったオリパラの教育教材を日本中の子供たちに配りたいというアイデアもあるが進んでいない。経済的な理由だけで実現できないという事態に小林氏は忸怩たる思いをしているという。

以上の報告の後、2020東京オリパラにまつわり、日本のマンガや紙芝居という文化が関わることのできる可能生に、参加者から、様々な質疑や意見が出た。また資金の調達方法についても、クラウドファンディングの可能性についての意見が出た。最後に中塚理事長より「これまでサロンでも取り上げることのなかった分野ではありますが、非常に新しい情報を得たのと、可能性を感じたのと、課題もいっぱい感じましたが、なんとかしていきたいなというふうなことも感じました。」という言葉で月例会は閉会、さらなる談義は懇親会で行われた。



海外実績「ジャングル大帝レオ紙芝居」



ボンジュールおもてなし紙芝居（観光庁ブース）

1

TOKYO2020 オリンピック・パラリンピックと漫画の世界

2017年11月24日(金)

漫画家学会内に掲示中フラッグ

東京漫画家協会
営業統括部
NPOの法人 日本マンガアニメ・トキフ在フォーラム
協賛
小林 勝海

5

TOKYO2020との関わり

2009年7月、紙芝居発祥の地「荒川区」は熊野前商店街にて「紙芝居道場」開業
(渋谷が手狭になった為)

熊野前駅は都電荒川線の「熊野前駅」
採用した社員と私も含めて社員全員が徒歩圏内に居住しながら事業を開始。
物件を見つけてくれた東京商工会議所 荒川支部様との交流が始まる。
新たな「観光資源」として「紙芝居事業」に着目して頂き、区との交流も盛んになる。
2012年3月、忘れもしない昼食時に東商荒川支部の方より「2020年東京オリンピック・パラリンピック」の招致紙芝居を作成してみないか?とお誘いを頂く。
仕事でスポーツと子供に関わる事が目標であった為、快諾。
区内中心に招致活動始める。

同7月、招致委員会に採択され都内と東北巡業が始まる。
採択のきっかけとなったのは「招致委員会評議員300名」と「集う会」の席上(都庁45F展望室)で、紙芝居を披露する機会に恵まれ、当時の専務理事ミズノ会長からは「俺たちの時代はこれだった!と、名刺を持ってすっ飛んできてくれました!

「動画」をご参照ください。

オフィシャルスポンサー懇親会の席上でも披露(2013年1月)

2

1963年 東京都墨田区生まれ 54歳 バツ1です。
高校生になるまで住み込みの職人さんがいました。
中学の喫煙率が50%以上だった地域です。.....

1986年 ㈱ワールド入社
1992年 ㈱フォルテ入社(ニト製品製造卸業)
1996年 (名)TINK コーポレーション代表就任
・製販一体化ビジネスモデルの推進(SPA化)
・全国ニト青年協議会 代表就任

2004年 ㈱アイ・エフ・ピー入社、新規事業担当
ファクトリーブランドの推進

2008年6月19日 代表者(三木文夫)の還暦の誕生日に法人登記
2009年春 ㈱漫画家学会 事業開始
同4月・5月「紙芝居で正社員募集オーディション」主催

※子供二人を社会に出し、長男の役目を全うし、新たなモチベーションを模索中。

※墨田区更正選道会 副指導部長 刺道5段
高校生の時は甲子園出場を目指す夢でした。

6

招致実績① 2012年4月~2013年8月

学校をあげての招致

子ども自身が、招致についてできる
まじりたい気持ちで参加したい

3

起業きっかけ

上海龍視大学よりマンガカレッジ設立にあたり日本の漫画家の講師を派遣して欲しいと相談を受け、日本で初めて大学に「マンガ学部」を設けた「京都精華大学 マンガ学部」と出会ったところから、漫画業界との接点が始まりました。

牧野学部長(現当社会長)が引退する際、漫画家に新しい仕事を作って欲しいと依頼を受け純漫画家学会を起業。
精華大の卒業生が毎年200名以上おり、殆どの卒業生が「マンガ関連」で収入を得られていない事実を知りました
国内には漫画家が3万人いるとされ勿論世界最大の規模にも関わらず、「マンガ」だけで生業としている人は約1000人と言われています。

この日本が誇る輸出コンテンツの「漫画家」に従来になりにレードで仕事を創出する事が起業のきっかけでした
また、中国/青島に本社を置くサンヨーの株式会社になる前の「ハイアール社」の起業物語の漫画冊子10万部は中国国内のハイアールの社員に配布され、意図の改革に大きく貢献致しました。
担当作家は当社の専務を担っていらっしゃいます。

7

招致実績②

大会場の招致

子ども自身が、招致についてできる
まじりたい気持ちで参加したい

4

正社員で紙芝居師募集オーディション

2009年4月 朝日新聞掲載記事

就職に紙芝居師いかが
渋谷で28日オーディション 「子供さんの増える紙芝居」

2009年10月 朝日新聞掲載記事
浪人の星、輝く巧打

2009年4月28日 第1回正社員で紙芝居師募集オーディション In 浅草 花やしき
2009年5月15日 第2回正社員で紙芝居師募集オーディション In 町田 市民文学館
2回で計300名の方が応募され40名の合格者を排出し、若くて優秀な3名を正社員で採用(当時、クライアント0)

2009年4月29日(祝) 昭和の日に困って花やしきで「ズームイン」に生出演
ON AIR中に厚木市の職員の方から市内全児童館45館口演を受注

8

招致実績③

東北での招致

専務、笑顔のために

招致実績④

9



1964年東京パラリンピック会場

13



開催国決定

10

招致活動の実績が認められ、2013年9月7日「開催国都市を決定を迎える会」の招待を頂き、歓喜の瞬間を東京商工会議所7F国際ホールで迎えました。



開催都市決定1週間前イベント主催1nお台場 当日配布されたTシャツと、日本手ぬぐい ※ロゴ会長の有名なTOKYO, の前からのお宝映像をご覧ください。

渋谷区内での実績

14



※区内公立保育園・幼稚園・小学校年60回/年口演中 ※メディア掲載実績多数(別紙紹介) 認知度向上に若干寄与?

海外実績

11

会社として紙芝居を事業とする前例なく、起業時より有力な企業とのタイアップが始まり、「手塚プロダクション」との取り組みもフランス/パリで開催される「ジャパンエキスポ」皮切りに手塚作品の欧米への知名度向上の一役を紙芝居で担っております。



ジャングル大帝レオ紙芝居 ボンジュールおもてなし紙芝居(観光庁ブース)
NPO法人日本マンガアニメ・トキワ荘フォーラム設立(2012年11月設立)
・世界に誇る知的財産である日本のマンガ・アニメ文化を地方自治体・関連団体と交流・連携して全国そして世界に向けて発信していく事を目的とする。
連絡協議会(座長:小室 祐一)を通し30の地方自治体と連携中。
今6月のオランダ興行の動画をご覧ください!(集客~広報)

東京国際漫画フェスティバル2020

15

企画名 : マンガでオリンピック・パラリンピックムーブメントを盛り上げよう!
主催 : 公益財団法人 日本漫画家協会(理事長:ちば てつや)
事務局 : (案) 樹漫画家学会・実行委員会形式??
詳細 : 別紙企画案参照
背景 : 「マンガ文化」は日本が野球に例えればメジャーリーグ
世界に誇る輸出コンテンツとして「マンガ」の持つ力を最大限に活かして
2021年以降も活気ある日本を目指す。

経緯 : 2016年8月15日、キックオフミーティング(座長:牧野 圭一)
本事業発案者をはじめ有識者10余名の方々にお集まり頂き、事業内容についての戦略説明と推進についての許諾を頂く。
その後、事業推進責任者の宮野 能伸(漫画家)が中心になり、「文化プログラム」への申請に向けて動き始める。
「漫画で可視化を実施されている地方自治体」や「オフィスチャルソンベンチャーに協力・協賛」を
求めるも、計画が甚大過ぎてよきパートナーが不在。
宮野が関与在任と言う事もあり、現在事業の推進頓挫中。

今後について
漫画家協会は漫画の権利発生が目的の団体で事業運営は不可。
出版社は自社の利益誘導優先の為、面の事業展開は不可。
この好機会を活かすには、「オールジャパン体制」を敷きたい。

バラの関心度の少なさへの怒り

12

招致紙芝居活動の際、パラリンピアンの方々と同席する機会が増え、パラリンピアンの方々の現状の一部を知りえる事になる。(根本慎二さんの明るさに共鳴!)
ロンドン五輪にて金メダルを獲得した「ゴールボール女子」の国際親善試合を見学。
会場の有明スポーツセンターでの観客は20名程。
その後の千葉ポートアリーナでのパラ競技公式戦や各種体験会に参加するもその観客・体験者の少なさに「怒り」さえ覚え、
パラリンピックの機運醸成事業は人生を賭けて実施するものと心に誓う!



2015年12月、A4ペラ1枚の企画書を携え渋谷区長に「パラリンピックムーブメント」の提議。同じ体温であった為、2020年度までの継続事業としての契約。決ページに書く。
オリジナル紙芝居を制作するに参考図書を探すもその少なさに驚きを覚え、東京で2回目の「パラリンピック開催都市として世界に恥をかかないか?」と今でも思っています。だいぶメディアへの露出は増えましたが。

2017年12月

運動部活動のいま



嶋崎雅規 (国際武道大学体育学部体育学科准教授)

1962年生まれ。国際武道大学体育学部体育学科准教授。体育学修士。
帝京中・高等学校国語科教諭を経て現職。専門は体育・スポーツ経営学。

【日 時】 2017年12月19日(金) 19:05 ~

【会 場】 筑波大学附属高校 3F 会議室

【テーマ】 運動部活動のいま

【演 者】 嶋崎雅規 (国際武道大学)

【参加者(会員・メンバー) 10名】

安藤裕一 ((株) GMSS ヒューマンラボ)、岸卓巨 (日本スポーツ振興センター)、斎藤芳 (桜丘高校サッカー部顧問)、嶋崎雅規 (国際武道大学)、白井久明 (弁護士)、鈴木稔 (オーシャンズジャパン株式会社)、竹中茂雄 (東海道品川宿 FC)、中塚義実 (筑波大学附属高校)、守屋俊英 (世田谷区サッカー協会/高校サッカー部)、吉原尊男

【参加者(未会員) 12名】

池上功、氏家美優 (茨城大学学部 4年)、慶野順一 (国際武道大学 OB)、小平健太郎 (トレーニングコーチ)、岸弘之 (西巣鴨中サッカー部外部指導員)、白井浩司 (アスレティックトレーナー/フリーランスでパーソナルトレーナー)、関拓美 (パーソナルトレーナー/コンディショニングコーチ)、長尾樹 (アスレティックトレーナー/鍼灸師/榊 T.P.PLACE)、中西正紀 ((株) 古今東西社)、藤原明夫 (県立千葉高校)、松並敬 (都立豊島高校サッカー部外部指導員)、守屋佐栄 (サッカーサポ/帰宅部)

【報告書作成者】 嶋崎雅規

学校運動部活動は、放課後すぐに学校の仲間たちと手軽にスポーツを楽しめる有効なシステムとして、我が国が誇るべきものである。笹川スポーツ財団(2017)によると、2016年現在、中学生の66.5%、高校生の44.2%が運動部活動に参加しているとされている。しかし、そのシステムも限界にきている。

まずは戦前の運動部活動について簡単に触れ、戦後の運動部活動がその時代によって様々な役割を果たしてきたことを振り返った。戦後すぐは民主化教育の手

多様性が認められない運動部活動

- 多くの運動部活動が週に6~7日、土日も活動
- シーズン制
- 総合型運動部
- ニュースポーツ
週3~4日、試合のない土日は休み

運動部活動における課題

- 顧問主導型の勝利至上主義的活動
- 休日もない過度の活動
- 少子化による生徒数の減少
- 運動部活動への参加生徒数の減少
- 教職員数の減少と顧問不足
- 指導者の高齢化や実技指導力不足

背景にあるのは...

- トーナメント中心の競技会
 - ・負けたら終わりのノックアウト方式
 - ・常に「勝つ」ことが求められる
- 選手制度
 - ・一つの学校に一つのチーム
 - ・部員が多いと補欠増、少ないと競技会参加不能
- 実質2年半という時間の制約
 - ・最後の大会が終わると「引退」?
- プレイ(遊び)の否定
 - ・競技志向で「道」を究める姿が求められる

段として、東京オリンピックに向けては競技力の向上を目指して、その後はスポーツの大衆化や生涯スポーツ社会実現のために、運動部活動の役割は変化してきた。

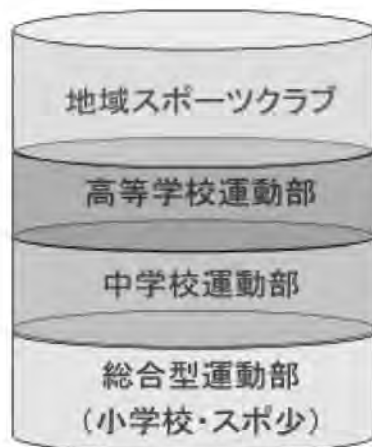
その後、運動部活動の現状を明らかにし、現在の運動部活動の問題点を整理した。さらに部活動指導による教師の多忙化の問題、専門性の欠如による実技指導力に対する不安などについても触れた。それを解消

するために、外部指導者の導入を促進していることや、部活動指導員を学校職員として位置づけるようになったことを紹介した。

これからの運動部活動は、もっと多様化すべきであることを意見として述べ、その実現を阻んでいる原因についても言及した。最後に、演者の考える「これからの望ましい運動部活動」のあり方を紹介し、まとめとした。



望ましい運動部活動の姿は？



生涯スポーツにつながる活動

- 競技志向でない活動
- 小学校では総合型運動部で多種目を経験
- 中学校ではシーズン制で複数種目を経験
- 試合は地域のリーグ戦でチャンピオンシップでなく
- 競技志向の活動は、週末などに広域的なクラブで

67

2018年1月

日本と中国のユース年代のスポーツ環境を 考えるー中国のサッカー指導者との情報交換会 (Sport for Tomorrow 認定事業)

中塚義実（筑波大学附属高校） & 牧野さん Kenio Yao（成都市のサッカー会社）
通訳：鈴木稔（オーシャンズジャパン株式会社）

【日 時】 2018年1月12日(金) 18:30～21:10

【会 場】 筑波大学附属高校 3F 音楽室

【テーマ】 日本と中国のユース年代のスポーツ環境を考えるー中国のサッカー指導者との情報交換会（Sport for Tomorrow 認定事業）

【演 者】 中塚義実（筑波大学附属高校） & 牧野さん Kenio Yao（成都市のサッカー会社）

通訳：鈴木稔（オーシャンズジャパン株式会社）

【参加者（会員・メンバー）9名】

安藤裕一（(株) GMSS ヒューマンラボ）、奥崎覚（Qoly）、岸卓巨（日本スポーツ振興センター）、斎藤芳（桜丘高校）、笹原勉（日揮）、鈴木稔（オーシャンズジャパン株式会社）、張寿山（明治大学）、中塚義実（筑波大学附属高校）、守屋俊英（世田谷サッカー協会）、

【参加者（未会員）3名】

本間圭（ルーヴェン高崎FC）、守屋佐栄（サポ）、国島栄市

【日本サッカーインスペクションツアー参加者（中国側13名。北京・上海・成都など各地から）】

民間の育成を主とするクラブの指導者 3名

学校の先生（校長、教頭） 2名

スポーツマネジメント会社 2名

サッカーメディア 4名 ※大手ではなく、サッカーに特化したAPP系のメディア

オーシャンズスタッフ 2名

【報告書作成者】 中塚義実 & 鈴木稔



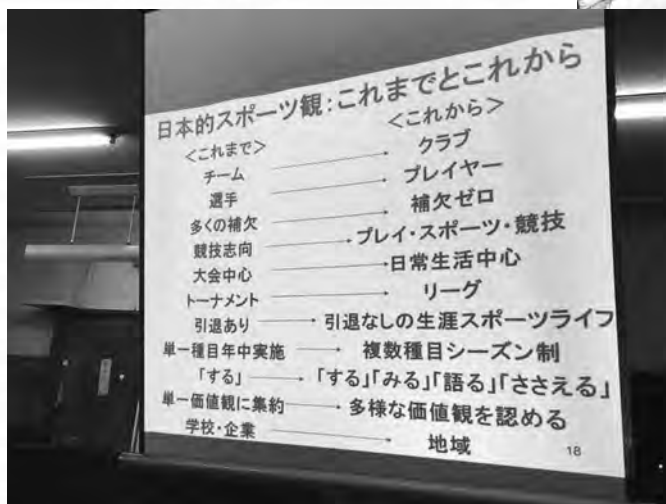
今回は、オーシャンズジャパン株式会社と連携して「中国のサッカー指導者との情報交換会」を開催、Sport for Tomorrow 認定事業でもあった。

中国からの一行13名は、北京、上海、成都などそれぞれの地域より日本のサッカー事情視察に来日。Jクラブの指導現場の訪問、全国高校サッカー選手権の観戦などに数日かけた後、最終日に到着したのが筑波大附属高校。体育の授業（5限目のマット運動（1年生女子）、6限目のサッカー（1年生男子））を参観、放課後は部活動（サッカー、テニス、陸上競技、バドミントンなど）を見学した後に月例会となった。

鈴木氏が通訳をしながらか中塚氏、牧野氏、Kenio

Yao氏がそれぞれ日中の体育ならびにサッカー事情について報告、これに続き情報交換ならびに意見交換がなされた。中国の方たちにとって教育とスポーツが密接に結びついた日本の学校体育や部活動はとても印象的だった様子。中国のスポーツ界でも指導者による暴力があるが、「学ぶ意欲のある指導者たちは暴力を振るわない、これからはそのような良い指導者が増えてくる」という言葉に中国のスポーツの未来を見ることができた。

（この後の懇親会でも日中の国際交流が行われたが、この会場である中華料理屋の女将さん（中国人）は、中国からの来客をととても喜んでいた）



1 Gavic Cupユースフットサル 選抜トーナメント2017

3月28～30日、墨田区総合体育館にて「GAVIC CUP ユースフットサル選抜トーナメント2017」が開かれました。全国9地域から「選抜」された12チームによる熱戦は、この年代へのフットサルの定着と可能性を感じさせるものでした。NPO サロン主催で正月に静岡のエコパアリーナで開かれた「U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ2017」で活躍した選手やささえてくださった方々の姿もあり、とても楽しい3日間でした。

決勝は2年続けて新潟県選抜と東京都選抜Aの対戦です。昨年は決着がつかずPK方式で新潟に軍配が上がり、今年はすでにグループステージで両チームの対戦があり新潟が4-2で勝利しています。とはいえ、今年の東京は戦力充実、良い準備で臨み、何といってもモチベーションが高い…。

けど結果はまたまた1-1からのPK戦、新潟に軍配が上がりました。

東京の選手たちは涙を流すわけではなく、みなさばさばしている印象でした。彼らは次のカテゴリー(大学 or 社会人)でもフットサルを続けてくれることでしょう。Fリーグや日本代表でプレーする選手もいるだろうと思います。今後が楽しみです。

昨夏の「全日本ユース(U-18)フットサル大会」(JFA主催。単独チームの日本一を決める大会)も、決勝は新潟の帝京長岡高校と東京のフットボウズ・フットサルU-18でした。中学生年代からフットサルの全国大会で実績を残してきた新潟には「勝者のメンタリティ」が備わっていたのかもしれませんがね。連覇達成、おめでとうございます！

2017.4.1. 中塚義実(スポネットサロン2002
メンバーへのメーリングリストへの発信より)

2011年の秋、筑波大学附属高校の体育教官室で中塚さんとU-18フットサルの全国大会創設に向けて一步を踏み出し、翌3月には「U-18フットサルトーナメント」として大会を開催。各地域のフットサル連盟の皆様と調整して、9地域からチームを選出いただいたの開催となりました。作陽、国学院久

我山、松山工などのサッカー強豪校が参加した大会は、作陽との決勝を延長で制した名古屋オーシャンズU-18が優勝し、フットサル勢の面目躍如となりました。

翌年には大会会場で、JFAフットサル委員長の松崎氏、JFF専務理事の大立目氏などにも参加いただいてサロン2002のシンポジウムを開催し、U-18フットサルの将来に向けての意見交換を行うこともできました。大会はJFFの主催事業となり、サロン2002はスポーツ振興くじ助成の要件を満たすためということもあり共催として参画してきました。2014年にはJFA主催の「全日本ユース(U-18)フットサル大会」が設立され、当初の目標である「U-18フットサルの全国大会」が果たされました。「トーナメント」は「ユースフットサル選抜トーナメント」と名称を変更して開催され、現在ではJFFにて助成を受けての開催が実現していますので、サロン2002としては共催という立場にこだわらず、今後も大会をサポートしていきたいと考えています。本年度からスタートしたリーグで日常的にフットサルをプレーするチームを対象とした「リーグチャンピオンズカップ」も将来的にはJFA、JFFで開催されるべき大会と考えていますが、全地域でリーグが開催されていない現状ではサロンが担っていく大会ととらえています。

2017.4.23. 本多克己

大会要項 (抜粋)

- 名称** GAVIC CUP ユースフットサル選抜トーナメント 2017
- 期日** 2017年3月28日(火)～30日(木)
- 会場** 墨田区総合体育館(東京都)
- 主催** 一般財団法人日本フットサル連盟
- 共催** 特定非営利活動法人サロン2002
- 後援** 公益財団法人日本サッカー協会、一般社団法人北海道フットサル連盟、東北フットサル連盟、関東フットサル連盟、北信越フットサル連盟、東海フットサル連盟、関西フットサル連盟、中国フットサル連盟、四国フットサル連盟、九州フットサル連盟
- 主管** 公益財団法人東京都サッカー協会、東京都フットサル連盟
- 特別協賛** GAVIC(株式会社ロイヤル)
- オフィシャルゲームボール** 株式会社ミカサ
- 協力** 株式会社シックス
- 参加資格** 本大会の参加チームは次のいずれかの要件を満たしていること。一般財団法人日本フットサル連盟(以下、「本連盟」という。)に加盟承認された単独チームであること。本連盟に加盟承認された都道府県フットサル連盟の選出チーム(以下、「選抜チーム」という。)であること。選抜チームは、都道府県フットサル連盟に加盟するチーム(以下、「加盟チーム」という。)3チーム以上から選抜された選手により構成されたチームであること。参加チームの選手は、公益財団法人日本サッカー協会(以下、「日本協会」という。)に、「サッカー2種または3種」、「フットサル1種、2種または3種」の種別で加盟登録されたチームに所属する1998年4月2日以降、2004年4月1日以前に生まれた選手であること。男女の性別は問わない。外国籍選手は1チームあたり3人までの登録を認める。地域大会において、選手は他のチームで参加していないこと。
- 参加チームとその数
- 【次の各号により選出された12チーム】
- 9地域フットサル連盟から各1チーム
- 開催地から1チーム
- 前年度優勝チーム所属地域から1チーム(北信越地域)
- 前年度準優勝チーム所属地域から1チーム(関東地域)

大会形式

1次ラウンド：12チームを4チームずつ3グループに分けてリーグ戦を行い、各グループ1位チームと各グループ2位チームのうち成績上位1チーム(計4チーム)が決勝ラウンドへ進出する。順位は、グループ内の勝点合計の多いチームを上位とする。勝点は、勝ち3、引分け1、負け0とする。

決勝ラウンド：4チームによるノックアウト方式で行う。3位決定戦は行わない。

大会結果

●A グループ

1	U-18 北海道選抜	5-0	U-18 富山県選抜
1	U-18 宮崎県選抜	3-4	U-18 東京都選抜 B
2	U-18 北海道選抜	2-1	U-18 東京都選抜 B
2	U-18 富山県選抜	6-10	U-18 宮崎県選抜
3	U-18 北海道選抜	8-1	U-18 宮崎県選抜
3	U-18 富山県選抜	3-5	U-18 東京都選抜 B

●B グループ

1	岡山県作陽高等学校	2-2	U-18 静岡県選抜
1	U-18 大阪府選抜	5-3	U-18 千葉県選抜
2	岡山県作陽高等学校	2-4	U-18 千葉県選抜
2	U-18 静岡県選抜	2-2	U-18 大阪府選抜
3	岡山県作陽高等学校	3-5	U-18 大阪府選抜
3	U-18 静岡県選抜	6-3	U-18 千葉県選抜

●C グループ

1	松山工業高等学校	0-7	U-18 新潟県選抜
1	U-18 宮城県選抜	0-8	U-18 東京都選抜 A
2	松山工業高等学校	0-7	U-18 東京都選抜 A
2	U-18 新潟県選抜	6-1	U-18 宮城県選抜
3	松山工業高等学校	1-7	U-18 宮城県選抜
3	U-18 新潟県選抜	4-2	U-18 東京都選抜 A

●決勝ラウンド

準決勝	U-18 新潟県選抜	3-2	U-18 北海道選抜
準決勝	U-18 大阪府選抜	2-6	U-18 東京都選抜 A
決勝戦	U-18 新潟県選抜	2-2 (PK3-2)	U-18 東京都選抜 A

得点王の安井嶺芽くん（U-18 新潟県選抜）には賀川浩賞が授与されました。



2 U-18 フットサルリーグ チャンピオンズカップ2017

大会を終えて－ここがスタート！

特定非営利活動法人サロン2002 理事長 中塚義実

ノックアウト方式のカップ戦がスポーツの普及に貢献し、総当たり方式のリーグ戦が日常化に貢献することは、国内外の様々な事例からみることができます。サッカーの母国イングランドにおいて、フットボールのルールが統一されてFAができたのは1863年ですが、爆発的に広まったのは1871年のFAカップ創設がきっかけです。この大会によってFAルールのフットボール(すなわちサッカー)が英国中、さらに世界中に広がっていくのです。しかしフットボールが日常生活の一部となったのは1888年のフットボールリーグ創設でした。ホーム&アウェイのゲーム環境によって、選手やチームだけでなく地域でくらす人々にとって、フットボールが日常生活の一部となっていくのです。

「スポーツを通してのゆたかなくらしづくり」を“志”に掲げるNPO法人サロン2002は、サッカーをはじめとするスポーツが日常生活の一部となり、人々のくらしに欠かせない文化として定着することを心より願っています。全国各地の同志が連携しながらそれぞれの現場で、あるいは法人の主催・共催事業の形で“志”を実現しようと試みています。本事業は“志”の実現のためにtotoの助成を得て実現しました。年度途中の追加助成確定が11月でしたので、そこからの本格的な始動です。JFFはもちろん、地元の東海FA・FF、静岡県FA・FFなど、多くの方々にご心配とご迷惑をおかけしました。それでも、今大会の意義に賛同してチームを派遣して下さった8都府県リーグ関係者や静岡県FAフットサル委員会の方々の全面的なご支援により、すばらしい大会になったことを大変うれしく思います。心より感謝申し上げます。

日本のユース年代のスポーツは、高校野球に代表される、長期休暇中のカップ戦が中心でした。しかし高校生年代の生活とスポーツ活動をバランスよく両立させていくためには、リーグシステムは不可欠です。サッカーにおいては徐々に整備されていますが、すそ野が広がったフットサルもまた、レベル別・地域ごとのリーグ環境を整えていく時期に来ていると言えるでしょう。リーグ戦は、誰かが運営してくれるのではなく、当事者による自主運営、すなわち「あなた自身」が担い手なのです。

全国各地にU-18フットサルリーグが育ち、日常的なフットサル環境が整ったとき、今大会が成功したと言えるでしょう。その意味で、まさに「ここがスタート！」です。

私たちも“志”に沿って、皆さんの試みを応援し続けます。

カップ戦	リーグ戦
ノックアウト方式 (負ければ終わり)	総当たり方式 (負けても次がある)
短期間	長期間
シーズン中の単発イベント	シーズンそのものを形成
非日常的な活動	日常生活の一部
移動をとまなう	生活圏で行われる
主催者が運営	当事者による自主運営

U-18 フットサルリーグ チャンピオンズカップ 2017

大会結果

●1次ラウンド 2017 / 01 / 06 (金) エコパ・メインアリーナ <Aグループ>

チーム名	FG	龍谷	エン	宝塚	勝点	試合数	勝数	分数	自数	絡得点	絡失点	得失点差	順位
FOOTBOZE FUTSAL U-18		800	302	1000	9	3	3	0	0	21	2	19	1
龍谷富山高校	0●8		604	803	6	3	2	0	1	14	15	-1	2
エンフレンテ熊本U18	2●3	4●6		4△4	1	3	0	1	2	10	13	-3	3
宝塚フットサルクラブ U18	0●10	3●8	4△4		1	3	0	1	2	7	22	-15	3

1	13:00	FOOTBOZE FUTSAL U-18	8 - 0	龍谷富山高校
1	13:00	宝塚フットサルクラブU18	4 - 4	エンフレンテ熊本U18
2	15:20	FOOTBOZE FUTSAL U-18	10 - 0	宝塚フットサルクラブU18
2	15:20	龍谷富山高校	6 - 4	エンフレンテ熊本U18
3	17:40	FOOTBOZE FUTSAL U-18	3 - 2	エンフレンテ熊本U18
3	17:40	龍谷富山高校	8 - 3	宝塚フットサルクラブU18

<Bグループ>

チーム名	PS	He	アリ	日本	勝点	試合数	勝数	分数	自数	絡得点	絡失点	得失点差	順位
PSTCロンドリーナ U-18		302	0△0	402	7	3	2	1	0	7	4	3	1
HeroFC U18F	2●3		301	901	6	3	2	0	1	14	5	9	2
アリアンサ フットサルクラブ	0△0	1●3		803	4	3	1	1	1	9	6	3	3
日本ウェルネス高等学校 信州筑北	2●4	1●9	3●8		0	3	0	0	3	6	21	-15	4

1	14:10	PSTC ロンドリーナ U-18	4 - 2	日本ウェルネス高等学校 信州筑北
1	14:10	HeroFC U18F	3 - 1	アリアンサ フットサルクラブ
2	16:35	PSTC ロンドリーナ U-18	3 - 2	HeroFC U18F
2	16:35	日本ウェルネス高等学校 信州筑北	3 - 8	アリアンサ フットサルクラブ
3	18:50	PSTC ロンドリーナ U-18	0 - 0	アリアンサ フットサルクラブ
3	18:50	日本ウェルネス高等学校 信州筑北	1 - 9	HeroFC U18F

●2次ラウンド 2017 / 01 / 06 (金) エコパ・サブアリーナ

7/8位決定戦	12:10	宝塚フットサルクラブU18	5 - 4	日本ウェルネス高等学校 信州筑北
5/6位決定戦	13:30	エンフレンテ熊本U18	4 - 9	アリアンサ フットサルクラブ
準決勝	9:30	FOOTBOZE FUTSAL U-18	4 - 5	HeroFC U18F
準決勝	10:55	PSTC ロンドリーナ U-18	8 - 0	龍谷富山高校
決勝戦	15:00	HeroFC U18F	2 - 0	PSTC ロンドリーナ U-18

フットサルリーグ チャンピオンズカップ 2017

得点ランキング

順位	選手名	チーム	得点	シュート数
1	内田 大登	エンフレンテ熊本U18	10	49
2	松田 隼	FOOTBOZE FUTSAL U-18	6	23
2	堀 光輝	宝塚フットサルクラブU18	6	14
4	山西 静樹	龍谷富山高校	5	12
5	千野 慧太	FOOTBOZE FUTSAL U-18	4	21
5	村上 拓也	FOOTBOZE FUTSAL U-18	4	26
5	南雲 颯太	FOOTBOZE FUTSAL U-18	4	17
5	原科 勇我	HeroFC U18F	4	29
5	木村 芳之	HeroFC U18F	4	56
5	原田 守久	PSTC ロンドリーナ U-18	4	27
5	松左川 晴也	アリアンサ フットサルクラブ	4	15
12	横田 海斗	HeroFC U18F	3	12
12	杉山 朋哉	HeroFC U18F	3	3
12	西村 響	HeroFC U18F	3	4
12	守屋 光	日本ウエルネス高等学校 信州筑北	3	19
12	金岡 俊哉	宝塚フットサルクラブU18	3	11
12	宮崎 颯斗	龍谷富山高校	3	10
18	富吉 洸貴	FOOTBOZE FUTSAL U-18	2	4
18	山下 慶次	HeroFC U18F	2	8
18	森本 光輝	PSTC ロンドリーナ U-18	2	14
18	成定 真生也	PSTC ロンドリーナ U-18	2	6
18	草柳 祐介	PSTC ロンドリーナ U-18	2	5
18	藤生 悠斗	PSTC ロンドリーナ U-18	2	5
18	庵下 義樹	アリアンサ フットサルクラブ	2	4
18	児玉 秀斗	アリアンサ フットサルクラブ	2	7
18	西脇 拓歩	アリアンサ フットサルクラブ	2	7
18	千葉 慶大	アリアンサ フットサルクラブ	2	7
18	木下 涼太	アリアンサ フットサルクラブ	2	7
18	浦岡 颯	アリアンサ フットサルクラブ	2	29
18	吉田 将士	日本ウエルネス高等学校 信州筑北	2	12
18	志村 岳	日本ウエルネス高等学校 信州筑北	2	3
18	福田 佑樹	日本ウエルネス高等学校 信州筑北	2	20
18	柴谷 雄太	龍谷富山高校	2	15
18	谷川 耀	龍谷富山高校	2	7
35	加山 直明	FOOTBOZE FUTSAL U-18	1	13
35	大野 大	FOOTBOZE FUTSAL U-18	1	7
35	茶碗谷 廉太郎	FOOTBOZE FUTSAL U-18	1	9
35	益田 知哉	HeroFC U18F	1	5
35	福井 来	HeroFC U18F	1	14
35	温 立丞	PSTC ロンドリーナ U-18	1	7
35	三浦 慎太郎	PSTC ロンドリーナ U-18	1	4
35	成澤 透	PSTC ロンドリーナ U-18	1	10
35	上東 龍生	アリアンサ フットサルクラブ	1	5
35	大山 友雅	アリアンサ フットサルクラブ	1	4
35	宮田 政宗	エンフレンテ熊本U18	1	1
35	松本 孝太	エンフレンテ熊本U18	1	6
35	森山 翔馬	エンフレンテ熊本U18	1	3
35	平山 琳斗	エンフレンテ熊本U18	1	1
35	竹内 亜陽	日本ウエルネス高等学校 信州筑北	1	5
35	加藤 総一郎	宝塚フットサルクラブU18	1	1
35	高橋 竣	宝塚フットサルクラブU18	1	14
35	上野 祐亮	宝塚フットサルクラブU18	1	3
35	小杉 翔輝	龍谷富山高校	1	3
35	土井 拓実	龍谷富山高校	1	2

U-18 フットサルリーグ チャンピオンズカップ 2017

出場チームアンケート

＜その他＞ その他、自由に感想、ご意見をお書きください。

・素晴らしい環境での2日間のフットサル真剣勝負をスタッフ、選手、サポーター一同、楽しませて頂きました。来年度以降、オフィシャルな大会となり、この大会がU-18フットサルの真の日本一を決める大会となることを願っています。誠にありがとうございました。

・ユース年代の大会を整備していただいて非常に感謝しております。この年代の試合の機会がどんどん増えていて充実した環境になりつつあります。他の地域にも波及していければと思いますので、何かあればご協力させてください。ありがとうございました。

・サッカーとの兼ね合いもあるため難しいですが高校のサッカー部も積極的にフットサルを取り入れリーグに参加するようになればより良いものになるのではないかと思います。

・今回この大会に参加し、出場し優勝という輝かしい成績をおさめることができ、大会を企画、主催して頂いたサロン2002の皆様には本当に感謝しています。こういう大会があるかも知れないと聞いたのが7月くらいで、夏の全日本ユース(U-18)フットサル大会で予選ラウンド敗退の我がチームにとって、新たな目標に向かえる大会でした。練習も全員が集まれる時がなく、試合(リーグ戦)で合わせていくしかない戦いが多く、リーグ戦も負けることが許されず、格下の相手でもチームで20点以上得点するなどのチーム目標や、フットサルの動きを理解していれば、得点は取れるはずと選手を叱咤激励し、12/11(日)、アグレミーナ/エスパッソとの決勝を何とか勝ち、出場が決まりました。大会参加もリーグ戦に出場しているチームで合併チームの出場が可能になったことも非常に大きく、中3の選手6名の登録は本当に素晴らしい案だったと思います。高校生の先輩達と中3の合併は普段から一緒に練習しているのでスムーズに融合しました。また中学生でこのような大会に出場できたことは、彼ら選手のこれからを変えるきっかけになったと思います。本当に良い生きた経験の場が今大会でした。

対戦チームも素晴らしいチームが多く、フェアプレー精神で最後まで一進一退の好ゲームが多く、どのチームが優勝してもおかしくなかったと思います。地元静岡開催で今川委員長、犬塚ユース委員長をはじめとする運営スタッフの皆様、東海や神奈川からご協力頂いた審判の皆様、ボールパーソン、の浜松日体中の選手達の協力やバックアップには本当に感謝しており、恥ずかしい試合はできないと選手に言い聞かせ、準決勝、決勝の素晴らしい試合に繋がったと思っています。本当に、この大会があり選手がさらに進化し成長し、最後まで諦めずに戦うことの勇気をもらいました。素晴らしい大会を企画、主催して頂いたサロン2002の皆様には感謝しかありません。また来年この舞台に立ち、活躍できるようにこれからも熱い熱意、情熱をこめて指導していきます。ありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します。

・このU-18フットサルリーグチャンピオンズカップが今後も毎年の開催を希望します。

・U18の指導者としては目標が出来て増々頑張れます。今後も継続してお願いいたします。

・この大会があることは参加チーム 参加チーム のモチベーションになります。感謝です！

3 U-18 フットサルリーグ チャンピオンズカップ2018

第2回大会を終えて

新年早々の1月6～7日、武田テバオーシャンアリーナには全国各地から、U-18リーグの代表チームが集まりました。Fリーグや地域リーグのトップチームを持つクラブの下部組織、育成年代に特化したフットサルクラブ、学校のフットサル部、あるいはサッカー部の冬のトレーニングとしてフットサルに取り組む高校生…。「いつでも、どこでも、誰とでも」楽しめるフットサルですが、とりわけU-18年代のフットサルには多様なチームやプレーヤーがおり、大きな可能性を感じます。

昨年度の大会を機にU-18リーグの整備は徐々に進み、今大会は10リーグから12チームが参加して開かれました。連盟でも協会でもなく、民間のNPOが主催する大会ですが、「U-18年代のレベルアップ」と「日常的なリーグ環境の整備」という二つのねらいにブレはありません。主催者として改めて責任の重さを感じるとともに、大きなやりがいを感じています。

1次ラウンドからすばらしい試合が続きました。私はおもにメイン会場の試合を見ていたのですが、各チームの個性のぶつかりあいは見ていて楽しいものでした。そして決勝戦は、U-18フットサル史上に残る好ゲームだったと言えるでしょう。優勝したサントスFCU-18の高い個人技と“遊び心”いっぱいフットサルは、見ているだけで楽しくなります（プレーヤーがもっとも楽しんでいました）。それに対するフウガドールすみだファルコンズも、個々の能力を最大限に引き出す戦術が有効で、いい意味での緊張感に満ちたゲームでした。後半、一瞬のすきを突いたサントスが4-1とリードを広げますが、そこからファルコンズはGKを含めた5人で攻撃を続けます。一つのミスが致命的となる緊張感の中で1点を返し、その後いくつもチャンスを作り、どちらが優勝してもおかしくないゲームでした。このレベルのゲームを、もっと多くの人に見てもらいたいと、強く感じました。

U-20代表監督の鈴木隆二氏が2日目に視察に来られ、この大会の意義を高く評価してくださいました。この年代の底上げが、日本のフットサルのレベルアップにつながります。それは、日常的なリーグ環境の整備と表裏一体です。各地のリーグ環境がよりよいものとなり、U-18リーグが全国各地にできていくことではじめて、この大会が「成功した」と言えるでしょう。そのときまで、totoの助成を受けながら、私たちのNPOはしっかりとこの大会を支え続けてまいります。

主管の愛知県フットサル連盟、後援の愛知県サッカー協会は、同時期に日本フットサル連盟の公式大会が開かれる中、全力で運営にあたってくださいました。また、そのような状況下で審判の手配が追いつかない状況がう生まれましたが、京都府や神奈川県からも派遣していただき、さらに出場チームのユース審判にも活躍してもらいました。自分たち自身で日常的なリーグ環境をつくりあげてきたからこそ、みなで協力し合って運営できたのだと思います。ご協賛各社をはじめ、本大会にご支援、ご尽力くださったすべての方々へ感謝と御礼を申し上げます。

同時期に開かれていた全国高校サッカー選手権大会が始まったのは大正7（1918）年。今年が100周年です。U-18年代のフットサルは、ようやく競技会が整備されてきたものの、まだ始まったばかりです。

ここを起点に、各地でU-18年代のフットサル環境が整っていくことを願います。

その担い手となるのは、ここに集った一人ひとりです。

これからもよろしく願い申し上げます。

特定非営利活動法人サロン 2002
理事長 中塚義実

大会結果

1次ラウンド

2018年1月6日(土) 武田テバオーシャンアリーナ

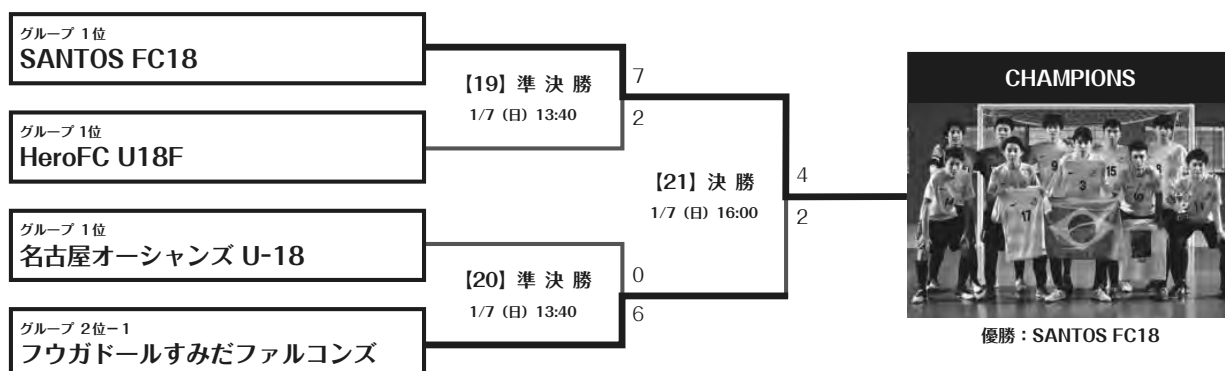
Aグループ		A1	A2	A3	A4	勝点	得点	失点	得失点	順位
A1	名古屋オーシャンズU-18 (愛知県代表)		5○1	4○1	5○2	9	14	4	10	1
A2	アズヴェール藤沢U-18 (神奈川県代表)	1●5		3●6	4△4	1	8	15	-7	4
A3	京都橘高校 (京都府代表)	1●4	6○3		4○3	6	11	10	1	2
A4	不二越工業高等学校 (富山県代表)	2●5	4△4	3●4		1	9	13	-4	3

Bグループ		B1	B2	B3	B4	勝点	得点	失点	得失点	順位
B1	SANTOS FC18 (愛知県代表)		2△2	12○2	9○0	7	23	4	19	1
B2	フウガドールすみだファルコズ (東京都代表)	2△2		7○1	12○0	7	21	3	18	2
B3	神戸国際大学附属高校フットサル部 (兵庫県代表)	2●12	1●7		5○3	3	8	22	-14	3
B4	筑北SC WELLNESS (長野県代表)	0●9	0●12	3●5		0	3	26	-23	4

Cグループ		C1	C2	C3	C4	勝点	得点	失点	得失点	順位
C1	HeroFC U18F (静岡県代表)		2○1	2○0	5○2	9	9	3	6	1
C2	FOOTBOZE FUTSAL U-18 (東京都代表)	1●2		5○1	4○1	6	10	4	6	2
C3	アリアンサフットサルクラブ (大阪府代表)	0●2	1●5		3△3	1	4	10	-6	4
C4	エンフレンテ熊本フットサルU-18 (熊本県代表)	2●5	1●4	3△3		1	6	12	-6	3

2次ラウンド

2018年1月7日(日) 武田テバオーシャンアリーナ



得点ランキング

1	ペレイラ チアゴ ヒデキ ミヤザキ	SANTOS	11
2	山口 勝輝	SANTOS	10
3	佐々木 拓海	フウガ	7
4	イチヤナギ ラファ エル ジェファソン	SANTOS	6
5	新田 朋紀	不二越工業	6

6	富山 勇気	フウガ	6
7	下田 康聖	名古屋オーシャンズ	5
8	横田 海斗	Hero	4
8	荒木 康作	SANTOS	4
8	山口 敬史	京都橘	4
8	川本 樹弥	名古屋オーシャンズ	4

あゆみ

全日本ユース (U-18) フットサル大会

主催：公益財団法人日本サッカー協会
 主管：一般社団法人宮城県サッカー協会
 後援：スポーツ庁、仙台市、スポーツコミッションせんだい

- 2014年 聖和学園 FC (宮城) / 大田区総合体育館、墨田区総合体育館
- 2015年 岡山県作陽高校 (岡山) / ゼビオアリーナ、仙台市体育館
- 2016年 帝京長岡高等学校 (新潟) / ゼビオアリーナ、仙台市体育館
- 2016年 矢板中央高等学校 (栃木) / ゼビオアリーナ、カメイアリーナ (仙台市体育館)

GAViC CUP ユースフットサル選抜トーナメント

2012年に「U-18フットサルトーナメント」として創設。2015年からは名称を変更し、全国9地域から選抜された12チームで大会が開催されている。

- 2012年 名古屋オーシャンズ U-18(愛知) / オーシャンアリーナ
- 2013年 瀬戸内高校 (広島) / オーシャンアリーナ
- 2014年 幕張総合高校 (千葉) / 駒沢体育館
- 2015年 愛知県選抜 U-18 / 墨田区総合体育館
- 2016年 U-18 新潟県選抜 / 墨田区総合体育館
- 2017年 U-18 新潟県選抜 / 墨田区総合体育館

※年 / 優勝チーム / 会場

ホンダカップ フットサルフェスタ

1997年から開催されているフェスティバル大会に2010年からU-18カテゴリーを設定。関東・東海・関西で予選大会が開催されている。

- 2010年 名古屋オーシャンズ U-18 / さくようフットサル部 / SEIRITZ
- 2011年 府中アスレティックFCユース / 作陽 Oito Soldados / FC岐阜 B
- 2012年 SAKUYO Nao admitem / 武相高校 / 岡崎学園高校フットサル部
- 2013年 クラーク記念国際高校 / 東京成徳大学高校フットサル同好会 / エスタジオ横浜
- 2014年 クラーク記念国際高校 / 湘南工科大学附属高校 / エスパッソ
- 2015年 SEIRITZ A / SAKUYO / ウエルネス高校 松本
- 2016年 フウガドールすみだファルコンズ / サントス サッカー ショップ / OKAYAMA SAKUYO
- 2017年 クラーク記念国際高等学校 / フウガドールすみだファルコンズ / 名古屋オーシャンズ U-18

※優勝、準優勝、第3位

U-18 フットサル大会のあゆみ

- 2001年 ・第1回東京都ユース(U-18)フットサル大会
- 2009年 ・東京都U-18フットサルリーグ
- 2012年 ・第1回U-18フットサルトーナメント(後援: J F F) サロン2002が法人格を持たないため、フロムワン、シックスが主催となり開催。
- 2013年 ・第2回U-18フットサルトーナメント (主催: J F F、産経新聞社) ・大会会場(オーシャンアリーナ)でシンポジウムを開催 松崎康弘氏(J F A 常務理事・フットサル委員長)、大立目佳久氏(J F F 専務理事)、賀川浩氏などが参加
- 2014年 ・第3回U-18フットサルトーナメント
 ・第1回全日本ユース(U-18)フットサル大会 ・U-18フットサルリーグ選抜交流戦を平塚・駒沢で開催
- 2015年 ・U-18フットサルトーナメントから ユース選抜フットサルトーナメントに名称を変更(主催: J F F、共催: サロン2002)
- 2017年 ・第1回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ



4 リサイクルプロジェクト / スキンプロジェクト

サロン2002では、履き潰されたサッカーシューズや使えなくなったサッカーボールの「革」を活用して、コインケースやキーケース、サンダルなどを制作する「リサイクルプロジェクト/スキンプロジェクト」を実施しています。この活動は、サロン2002が事務局業務を受託しているユースサッカーリーグ「DUOリーグ」で、「巨大靴型トロフィー」を製作したことに端を発します。DUOリーグでは優勝チームでトロフィーを持ち回していましたが、2008年にトロフィーを紛失するという出来事が発生しました。その際に、「遊び心」を持ったDUOリーグらしいトロフィーを製作しよう!、「リーグに出場するサッカー клуб(主に高校サッカー部)の資源を活用しよう!」という発想から、リーグに出場する選手より履き潰された靴を回収し、現代アーティスト「KOSUGE1-16」と靴創家「靴郎堂本店」の協力を得て製作したものが「履けなくなった靴でできた、履けるトロフィー」です。現在では、トロフィーには優勝チームのロゴが刻まれ、MVPや得点王の選手にはシューズの「革」から製作した靴型キーホルダー(「巨大靴型トロフィー」のミニチュア版)が送られています。また、トロフィーを製作したことをきっかけに、サッカーシューズやサッカーボールの「革」から新たな商品を製作するワークショップを各地で実施するようになりました。

2017年度は、7月30日に豊島区主催オリパラ気運醸成事業「東京2020、その未来(さき)の地域(まち)づくり展」にてコインケースづくりワークショップを実施しました。



2017年7月30日(日)

豊島区主催オリパラ気運醸成事業「東京2020、その未来(さき)の地域(まち)づくり展」にてコインケースづくりワークショップ実施(講師:佐藤いちろう氏、小澤圭史氏)

ワークショップは、スポーツを通じた国際貢献事業「スポーツ・フォー・トゥモロー(SFT)」ブースの1つのコーナーとして実施しました。豊島区役所1階フロアに設置されたイベントスペースに、アシックス・明治・JTBなどオリパラスポンサーのブースが並ぶ中、SFTブースではスポーツを通じた途上国支援の紹介をテーマに、「中古スポーツ用具の回収」「途上国で実施したスポーツイベントの紹介」と合わせて、「サッカーボールの革でコインケースを作るワークショップ」を実施しました。

豊島区役所が人通りの少ない場所にあることや今回のイベントについては区内小中学校・競技団体にチラシが配布されたものの十分に告知されていなかったことからイベント参加者は2日間合わせて500~700人程度でした。しかし、その中で、サロン2002のワークショップには子どもから大人まで30名以上の方が参加してくれました。

ワークショップの写真はサロン2002のFacebookページに掲載しています。

https://www.facebook.com/pg/salon.2002/photos/?tab=album&album_id=1831260290233767

事業報告

5 「DUOリーグ」事務局業務受託

サロン2002では、2016年2月よりDUOリーグの事務局および企画部業務を受託しています。DUOリーグは、東京都文京区・豊島区・足立区・中央区の高校運動部を中心としたサッカーリーグで、全国に広がるユースサッカーリーグのモデルとなったリーグです。レベルやニーズに応じて、「歯磨き感覚」「引退なし」「補欠ゼロ」でサッカーが楽しめる環境づくりを目指しています。サロン2002理事長の中塚義実が初代チェアマンを務め、DUOリーグの理念や構想にはサロン2002の月例会での議論が大きく影響しています。現在は、地区トップリーグへの昇格をかけた前期リーグ戦とピッチのサイズや出場選手数に柔軟性を持たせた後期リーグ戦（フリーサイズフットボールおよびフレキシブルリーグ）が行われ、優勝チームには前述の「リサイクルプロジェクト/スキンプロジェクト」で制作した「履けなくなった靴でできた、履けるトロフィー」が贈られます。2017年度は前期リーグ優勝チームである学習院高校と後期リーグ優勝チームである本郷高校に贈られました。また、サロン2002は、企画部として、各種講習会も企画・実施しています。2017年度は7月17日に東京リゾート&スポーツ専門学校及び菅泰夫氏（株式会社

ニューレックス）に協力いただきDUOリーグ関係者（プレイヤー・マネージャー・指導者等）を対象とした「栄養学・テーピング講習会」を開催しました。



6 SPORT FOR TOMORROW 事業への参加

SPORT FORTOMORROW (以下、SFT) は、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会を東京に招致する際、IOC総会において安部晋三首相が発表したことをきっかけに始まった日本政府が推進する国際交流事業です。2014年から2020年までの7年間で、開発途上国をはじめとする100カ国以上・1000万人以上を対象としたあらゆる世代の人々にスポーツの価値を広げることを目指しています。サロン2002は、SFTのムーブメントを推進する官民連携のネットワーク「スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム」(会員団体数359団体(2018年1月末現在))に会員団体として加盟しています。そして、国籍や年齢・性別などが異なる人でも一緒に楽しくボールを蹴ることを目的にした「Non-

Border Football」の実施や、外務省が主導するソマリア難民キャンプへのサッカー用具寄贈への協力などを通して、スポーツを通じた国際協力・国際交流を行ってきました。2017年度は、7月に実施された「SFT全体会議」や12月に実施された「SFT会員交流会」に参加した他、同じくSFTC会員団体である「オーシャンズジャパン株式会社」と連携し、2018年1月に中国のサッカー指導者との情報交換会(1月月例会)を実施しました。

SPORT FORTOMORROW 公式ホームページ：
<http://www.sport4tomorrow.jp/jp/>

**SPORT
FOR
TOMORROW**

